

FMV
BIBLO **LOOX**
ルークス

FMV- BIBLO LOOX P70R

B6FH-8642-01



ハードウェアガイド

FUJITSU

本書の構成

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくための注意事項や、本書の表記について説明しています。必ずお読みください。

第1章 各部名称

各部の名称と働きについて説明しています。

第2章 ハードウェア

本パソコンを使用するうえでの基本操作や、本パソコンに取り付けられている（取り付け可能な）周辺機器の基本的な取り扱い方について説明しています。

第3章 BIOS

BIOS セットアップというプログラムについて説明しています。また、本パソコンのデータを守るためにパスワードを設定する方法についても説明しています。

第4章 技術情報

本パソコンの仕様などを記載しています。

1

2

3

4

1

目次

本書の構成	1
本書をお読みになる前に	4
商標および著作権について	6

第1章 各部名称

1 各部の名称と働き	8
パソコン本体前面	8
パソコン本体上面	10
パソコン本体右側面	11
パソコン本体左側面	12
パソコン本体背面	14
パソコン本体下面	16
2 状態表示 LED について	17
3 タブレットボタンについて	20

第2章 ハードウェア

1 パソコンの疲れにくい使い方	24
ディスプレイ	25
使用時間	25
入力機器	25
机と椅子	25
作業スペース	25
2 周辺機器を取り付ける前に	26
取り扱い上の注意	26
3 ポイントティングデバイスについて	27
スティックポイントについて	27
タッチパネルについて	29
4 キーボードについて	31
OADG キーボード	31
5 バッテリについて	34
バッテリを充電する	34
バッテリで運用する	35
バッテリ残量を確認する	36
取り扱い上の注意	37
バッテリパックを交換する	39
6 液晶ディスプレイの回転について	42
7 ポータブル CD/DVD ドライブについて	45
使用できるディスク	45
ポータブル CD/DVD ドライブの取り付け／取り外し	48
ディスクをセットする／取り出す	49
8 メモリについて	53
メモリを交換する	53
9 SD メモリーカードについて	57
取り扱い上の注意	57
使用できる SD メモリーカード	57
SD メモリーカードをセットする	58
SD メモリーカードを取り出す	59
10 コンパクトフラッシュカードについて	61
取り扱い上の注意	61
コンパクトフラッシュカードをセットする	61
コンパクトフラッシュカードを取り出す	63

11 プリンタについて	66
接続について	66
12 外部ディスプレイについて	67
接続について	67
13 ハードウェアのお手入れ	69
パソコン本体のお手入れ	69
液晶ディスプレイのお手入れ	69
キーボードのお手入れ	70

第3章 BIOS

1 BIOS セットアップとは	72
2 BIOS セットアップの操作のしかた	73
BIOS セットアップを起動する	73
設定を変更する	74
各キーの役割	75
BIOS セットアップを終了する	76
3 メニュー詳細	77
メインメニュー	77
詳細メニュー	78
セキュリティメニュー	79
起動メニュー	81
情報メニュー	82
終了メニュー	82
4 BIOS のパスワード機能を使う	83
パスワードの種類	83
パスワードを設定する	83
パスワードを忘れてしまったら	86
パスワードを変更／削除する	86
5 BIOS が表示するメッセージ一覧	88
メッセージが表示されたときは	88
メッセージ一覧	89

第4章 技術情報

1 仕様一覧	94
本体仕様	94
2 コネクタのピン配列と信号名	97

索引	99
-----------------	----

本書をお読みになる前に

本書の表記

■警告表示

本書では、いろいろな絵表示を使っています。これは本製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようにになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。

	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
	○で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

■本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
	参照ページや参照マニュアルを示しています。

■キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【↑】キーなど

■コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

diskcopy a: a:
↑ ↑

- ↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、【Space】キーを1回押してください。
- また、上記のようなコマンド入力を英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。
- CD/DVD ドライブのドライブ名を、[CD/DVD ドライブ] で表記しています。入力の際は、お使いの環境に合わせて、ドライブ名を入力してください。

例:[CD/DVD ドライブ]:\\$setup.exe

■操作方法の記載

本文中では、操作方法を「クリック」と表記しています。

ペンで操作する場合は、「クリック」を「タップ」と読み替えてください。

■連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例：「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作

↓

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

■BIOS セットアップの表記

本文中のBIOSセットアップの設定手順において、各メニュー やサブメニュー または項目を、「-」(ハイフン)でつなげて記述する場合があります。また、設定値を「:」(コロン)の後に記述する場合があります。

例：「メイン」メニューの「言語 (Language)」の項目を「日本語 (JP)」に設定します。

↓

「メイン」-「言語 (Language)」: 日本語 (JP)

■画面例およびイラストについて

表記されている画面およびイラストは一例です。実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、このマニュアルに表記されているイラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

■製品の呼び方

本文中の製品名称を、次のように略して表記します。

なお、本書ではお使いの機種、またはOS以外の情報もありますが、ご了承ください。

製品名称	本文中の表記		
FMV-BIBLO LOOX P70R	本パソコン／パソコン本体		
Microsoft® Windows® XP Tablet PC Edition 2005	Windows XP Tablet PC Edition 2005	Windows XP	Windows
Intel® SpeedStep® Technology Applet	Intel SpeedStep		

■お問い合わせ先／URL

本文中に記載されているお問い合わせ先やインターネットの URL アドレスは 2005 年 10 月現在のものです。変更されている場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」へお問い合わせください (→ 『取扱説明書』)。

商標および著作権について

Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
インテル、Intel、Pentium、Celeron、Intel SpeedStep Intel Centrino は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。

Phoenix は、米国 Phoenix Technologies 社の登録商標です。

ATI、FireGL は ATI Technologies INC. の登録商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2006

画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

1

第1章

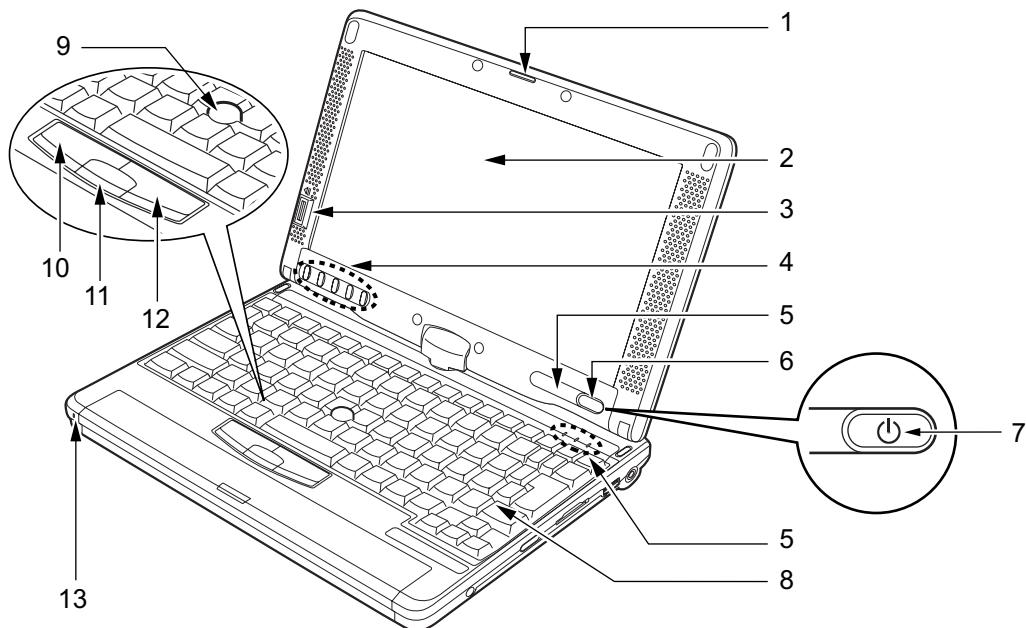
各部名称

各部の名称と働きについて説明しています。

1 各部の名称と働き	8
2 状態表示 LED について	17
3 タブレットボタンについて	20

1 各部の名称と働き

パソコン本体前面



(イラストは状況により異なります)

1 ラッチ

液晶ディスプレイが不用意に回転しないようにロックします。

2 液晶ディスプレイ

本パソコンの画面を表示します。

液晶ディスプレイを回転させると、タブレットモードとしてお使いになれます。

「ハードウェア」—「液晶ディスプレイの回転について」(▶ P.42)

POINT

液晶ディスプレイの特性について

以下は液晶ディスプレイの特性です。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

- ・液晶ディスプレイは非常に精度の高い技術で作られておりますが、画面の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります（有効ドット数の割合は99.99%以上です。有効ドット数の割合とは「対応するディスプレイの表示しうる全ドット数のうち、表示可能なドット数の割合」を示しています）。
- ・本パソコンで使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。
- ・長時間同じ表示を続けると残像となることがあります。残像は、しばらく経つと消えます。この現象を防ぐためには、省電力機能を使用してディスプレイの電源を切るか、スクリーンセーバーの使用をお勧めします。
- ・表示する条件によってはムラおよび微少な斑点が目立つことがあります。

3 指紋センサー

指紋を識別してユーザー認証を行うことができます（→『ソフトウェアガイド』（PDF）の「セキュリティ」－「指紋センサー」）。

4 タブレットボタン

ボタンを押すだけで、ソフトウェアの起動などを行うことができます。

5 状態表示 LED

本パソコンの状態が表示されます。

「各部名称」－「状態表示 LED について」（ P.17）

6 電源ボタン（）

パソコン本体の電源を入れたり、スタンバイ（中断）／レジューム（回復）させるためのボタンです。

POINT

電源ボタンを 4 秒以上押さないでください。

電源ボタンを 4 秒以上押し続けると、パソコンの電源が切れてしまいます。

7 電源ランプ

本パソコンが動作状態のときに点灯し、スタンバイ状態のときに点滅します。

「各部名称」－「状態表示 LED について」（ P.17）

8 キーボード

文字を入力したり、パソコン本体に命令を与えます。

「ハードウェア」－「キーボードについて」（ P.31）

9 スティックポイント

指先で上下左右に押してマウスボインタを操作します。

「ハードウェア」－「ポインティングデバイスについて」（ P.27）

10 左ボタン

マウスの左ボタンに相当します。

「ハードウェア」－「ポインティングデバイスについて」（ P.27）

11 スクロールボタン

スティックポイントと組み合わせて使うことで、画面をスクロールさせます。

「ハードウェア」－「ポインティングデバイスについて」（ P.27）

12 右ボタン

マウスの右ボタンに相当します。

「ハードウェア」－「ポインティングデバイスについて」（ P.27）

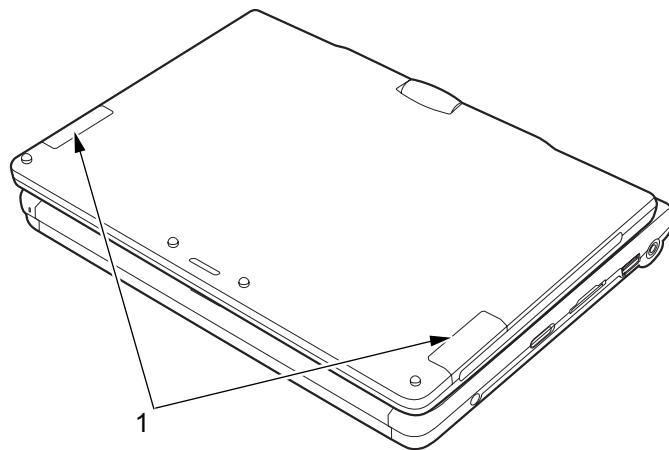
13 内蔵マイク

音声を録音できます。

POINT

- ・マイクとスピーカーを同時に使用するソフトウェアをお使いの場合、ハウリングが起きることがあります。このようなときは、音量を調整するか、市販のヘッドホンや外付けマイクをお使いください。また、マイクを使用していないときは、マイクを「ミュート」（消音）にしてください（『ソフトウェアガイド』（PDF）の「機能」－「音量の設定」）。
- ・内蔵マイクから録音する場合、音源との距離や方向によっては、音がひろいにくい場合があります。クリアな音声で録音したい場合には、外付けマイクを使用されることをお勧めします。

パソコン本体上面



1 内蔵ワイヤレス LAN アンテナ

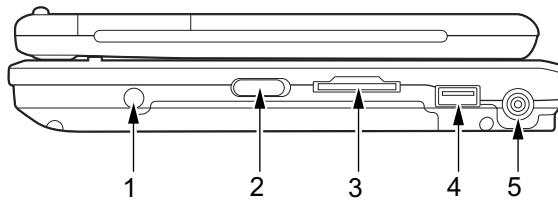
ワイヤレス LAN 用のアンテナが内蔵されています。

本パソコンの使用中、特にワイヤレス LAN で通信中はアンテナ部分に極力触れないでください。また、本パソコンを設置する場合には、周囲が金属などの導体（電気を通しやすいもの）でできている場所を避けてください。通信性能が低下し、設置環境によっては通信できなくなることがあります。

POINT

- ・ワイヤレスLANについては『ワイヤレスLANをお使いになる方へ』(PDF)をご覧ください。

パソコン本体右側面



重要

- 各コネクタに周辺機器を接続する場合は、コネクタの向きを確かめて、まっすぐ接続してください。

1 ペン

タッチパネルを操作するペンが収納されています。

「ハードウェア」—「タッチパネルについて」(▶ P.29)

2 ワイヤレススイッチ

ワイヤレス LAN による通信機能の ON と OFF を切り替えます。

病院や飛行機内、その他電子機器使用の規制がある場所では、スイッチを OFF にしてください。

POINT

- ワイヤレス LAN については、『ワイヤレス LAN をお使いになる方へ』(PDF) をご覧ください。

3 ダイレクトメモリースロット (SD)

SD メモリーカードをセットするためのスロットです。

「ハードウェア」—「SD メモリーカードをセットする」(▶ P.58)

4 USB コネクタ (USB)

FDD ユニット (USB) や USB 接続に対応したプリンタなど、USB 規格の周辺機器を接続するためのコネクタです。

USB2.0 に準拠しているため、USB1.1 および USB2.0 に対応した機器が接続できます。

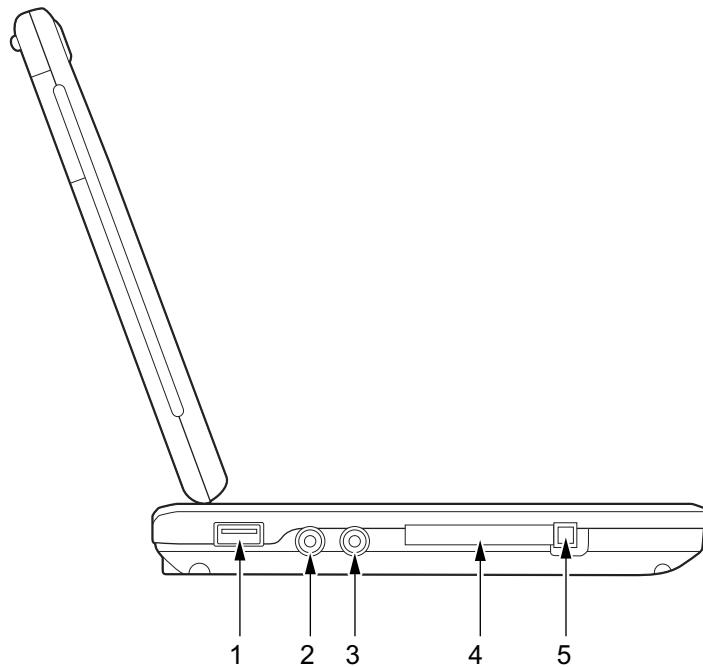
POINT

- ハブなどを経由して USB2.0 に対応した機器を接続した場合、ハブの性能によって接続した機器の性能が低下することがあります。

5 DC-IN コネクタ (DC)

添付の AC アダプタを接続するためのコネクタです。

パソコン本体左側面



重要

- 各コネクタに周辺機器を接続する場合は、コネクタの向きを確かめて、まっすぐ接続してください。

1 USB コネクタ (↔)

FDD ユニット (USB) や USB 接続に対応したプリンタなど、USB 規格の周辺機器を接続するためのコネクタです。

USB2.0 に準拠しているため、USB1.1 および USB2.0 に対応した機器が接続できます。

POINT

- ハブなどを経由して USB2.0 に対応した機器を接続した場合、ハブの性能によって接続した機器の性能が低下することがあります。

注意



- ヘッドホンやイヤホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないでください。
耳を刺激するような大きな音量で聞くと、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。



- 電源を入れたり切ったりする前には音量を最小にしておいてください。また、ヘッドホンやイヤホンをしたまま、電源を入れたり切ったりしないでください。
突然大きな音や刺激音が出て、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

2 マイク端子 (φ)

市販のマイクを接続し、音声（モノラル）を録音するための端子です（外径 3.5mm のミニプラグに対応）。

ただし、市販されているマイクの一部の機種（ダイナミックマイクなど）には、使用できないものがあります。ご購入前に確認してください。

3 ヘッドホン端子 (Ω)

市販のヘッドホンを接続するための端子です（外径 3.5mm のミニプラグに対応）。ただし、形状によっては取り付けられないものがあります。ご購入前に確認してください。

4 コンパクトフラッシュカードスロット (CF CARD)

別売のコンパクトフラッシュカードをセットするためのスロットです。

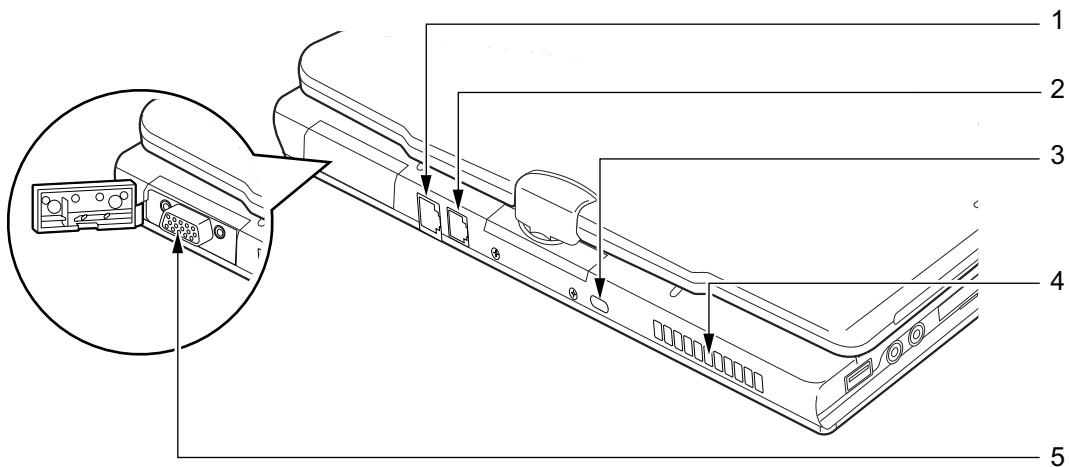
「ハードウェア」 - 「コンパクトフラッシュカードをセットする」 (●▶ P.61)

5 コンパクトフラッシュカード取り出しボタン

コンパクトフラッシュカードを取り出すときに押します。

「ハードウェア」 - 「コンパクトフラッシュカードを取り出す」 (●▶ P.63)

パソコン本体背面



(イラストは状況により異なります)

重要

- 各コネクタに周辺機器を接続する場合は、コネクタの向きを確かめて、まっすぐ接続してください。

1 LAN コネクタ (NIC)

LAN ケーブルを接続するためのコネクタです。

ポートリプリケータ接続時には、ポートリプリケータの LAN コネクタをお使いください。
『ソフトウェアガイド』(PDF) の「機能」 - 「LANについて」

2 モデムコネクタ (D)

モジュラーケーブルを接続するためのコネクタです。

POINT

- 内蔵モデムについては、『内蔵モデムをお使いになる方へ』(PDF) をご覧ください。

3 盗難防止用ロック取り付け穴

市販の盗難防止用ケーブルを接続することができます。

4 排気孔

パソコン本体内部の熱を外部に逃がすためのものです。

パソコンの電源を入れると、内部のファンが数秒間回転します。また、パソコン本体内部の温度が高くなると内部のファンが回転し、熱が放出されます。このため、起動時や動作中にファンによる回転音が発生しますが、パソコンの冷却のためであり、異常ではありません。

注意



- 排気孔をふさがないでください。
内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

※重要

- ・排気孔からは熱風がでます。排気孔付近には手を触れないでください。
- ・排気孔の近くに物を置かないでください。排気孔からの熱で、排気孔の近くに置かれた物が熱くなることがあります。

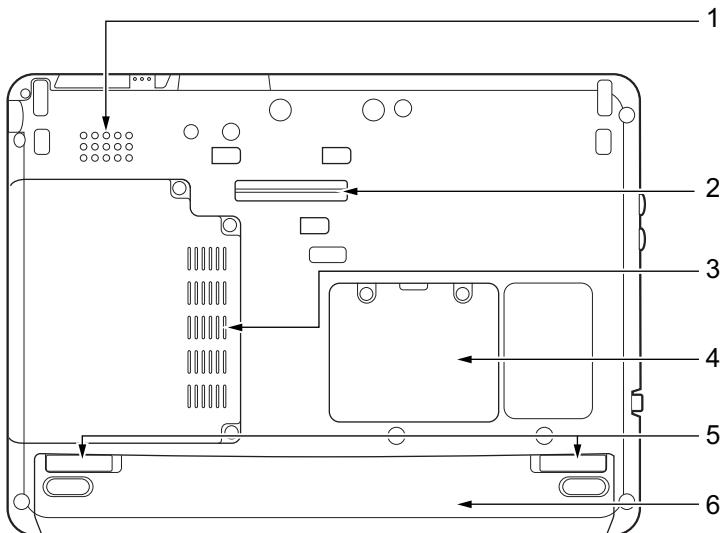
5 外部ディスプレイコネクタ (□)

アナログディスプレイなど、外部ディスプレイを接続するためのコネクタです。

ポートリプリケータ接続時には、ポートリプリケータの外部ディスプレイコネクタをお使いください。

「ハードウェア」 - 「外部ディスプレイについて」 (▶ P.67)

パソコン本体下面



1 スピーカー

本パソコンの音声が出力されます。

『ソフトウェアガイド』(PDF) の「機能」 - 「音量の設定」

POINT

- 音量はスピーカーから聞こえる音が歪まない範囲に設定や調整をしてください。スピーカーが故障する原因となります。

2 ポートリプリケータ接続コネクタ

ポートリプリケータを接続するためのコネクタです。

3 吸気孔

空気を取り込むための穴です。

⚠ 注意



- 吸気孔をふさがないでください。
内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

4 拡張 RAM モジュールスロット

本パソコンのメモリをセットするためのスロットです。

「ハードウェア」 - 「メモリについて」 (●▶ P.53)

5 内蔵バッテリパックロック

内蔵バッテリパックを取り外すときにスライドさせます。

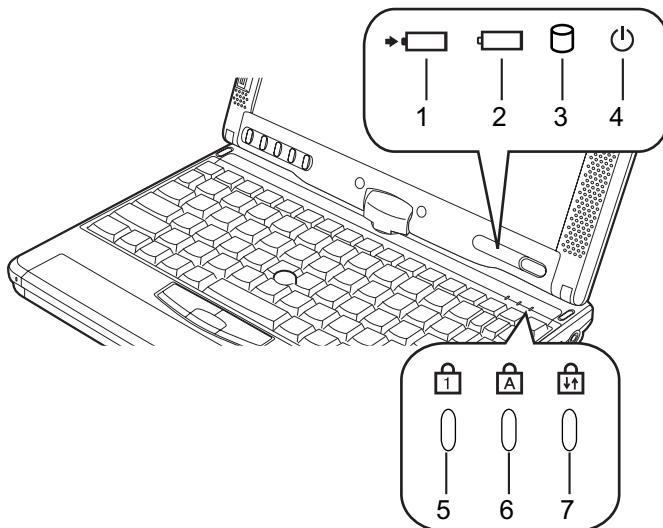
「ハードウェア」 - 「バッテリパックを交換する」 (●▶ P.39)

6 内蔵バッテリパック

内蔵バッテリパックが装着されています。

「ハードウェア」 - 「バッテリパックを交換する」 (●▶ P.39)

2 状態表示 LED について



(イラストは状況により異なります)

POINT

- 電源を切っている場合は、充電中を除いて状態表示 LED の全ランプが消灯します。

1 バッテリ充電ランプ

本パソコンに AC アダプタが接続されている場合に、内蔵バッテリパックの充電状態を表示します。

LED ランプ	バッテリパックの充電状態
緑色点灯	充電終了またはバッテリパック未装着で非充電
オレンジ点灯	充電中
オレンジ点滅	充電停止中 (バッテリ温度アラーム時など ^注)
消灯	AC アダプタ未接続により充電動作なし

注：バッテリ温度アラームとは、内蔵バッテリパックが熱を持って温度が高くなったり、冷やされて温度が低くなったりした場合に、バッテリの保護機能が働いて充電を停止することです。

2 バッテリ残量ランプ

本パソコンに接続されている内蔵バッテリパックの残量を表示します。

LED ランプ	バッテリの状態
緑色点灯	バッテリ残量 100 ~ 51% ^注
オレンジ点灯	バッテリ残量 50 ~ 13% ^注
赤色点灯	バッテリ残量 12%以下 ^注
オレンジ点滅	バッテリ残量計測中（内蔵バッテリパック装着後 4 秒間）
赤色点滅	バッテリ異常時
消灯	バッテリ未接続時またはバッテリ残量 0%

注：動作状態またはバッテリ充電中。

POINT

- 電源 OFF 時に内蔵バッテリパックを装着すると、バッテリ残量ランプはオレンジ点滅後、そのときのバッテリ残量を 5 秒間表示します。
なお、内蔵バッテリパックが充電されていない場合はそのまま消灯します。
- スタンバイでバッテリを充電していないときは、LED 表示が点灯ではなく点滅になります。その場合の点滅の間隔は、約 1 秒間点灯し、約 6 秒間消灯となります。
- バッテリ残量が 0% の場合、電源が入りません。AC アダプタを接続し、充電してからお使いください。

3 ハードディスクアクセスランプ (H)

内蔵ハードディスクにアクセスしているときに点灯します。

POINT

- ハードディスクアクセス表示が点灯中に、電源ボタンを操作すると、ハードディスクのデータが壊れるおそれがあります。

4 電源ランプ (P)

本パソコンの動作状態を表示します。

LED ランプ	パソコン本体の状態
青色点灯	動作状態
青色点滅	スタンバイ
消灯	電源 OFF または休止状態

5 Num Lock ランプ (N)

キーボードがテンキーモードのときに点灯します。【NumLk】キーを押して、テンキーモードの設定と解除を切り替えます。

「ハードウェア」－「キーボードについて」（ P.31）

6 Caps Lock ランプ (C)

アルファベットの大文字入力モードのときに点灯します。

【Shift】+【Caps Lock】キーを押して、アルファベットの大文字／小文字の入力モードを切り替えます。

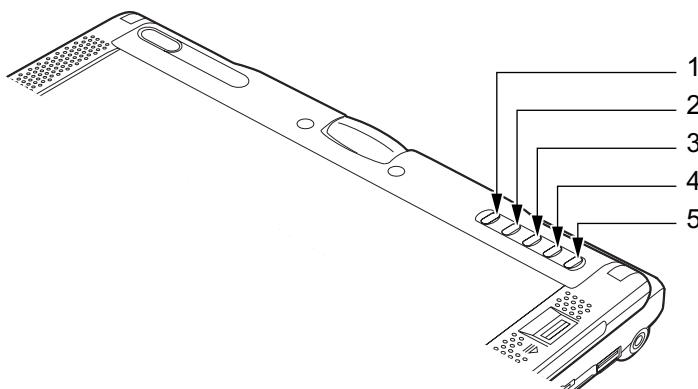
「ハードウェア」－「キーボードについて」（ P.31）

7 Scroll Lock ランプ ()

画面をスクロールしないように設定（スクロールロック）したときに点灯します。
【Fn】 + 【NumLk】キーを押して、スクロールロックの設定と解除を切り替えます。
点灯中の動作は、ソフトウェアに依存します。

3 タブレットボタンについて

タブレットボタンは、パソコンの各種機能を呼び出すためのボタンです。ボタンを押すだけでソフトウェアの起動などが行えます。



ボタン	機能
1 【Ctrl】+【Alt】+【Delete】ボタン	2秒以上押し続けると、キーボードで【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押したときの動作をします。
2 Fn ボタン	このパソコン独自のボタンです。2回押すと本パソコンを使用するのに便利な「富士通メニュー」が表示されます。
3 ローテーションボタン	画面の縦横の表示を切り替えます。
4 Page Up ボタン	前のページに切り替えるときに使います。
5 Page Down ボタン	次のページに切り替えるときに使います。

POINT

- ・「富士通メニュー」はディスプレイの明るさの設定や、音量の設定などの各種設定を、簡単に行えるメニューです。
- ・「富士通メニュー」は必要に応じてファイルやソフトウェアの起動を追加登録することができます。
 1. 「Fn」ボタンを2回押します。
「富士通メニュー」が表示されます。
 2. 「富士通メニューの設定」をタップします。
「富士通メニューの設定」ウィンドウが表示されます。
 3. 「追加」ボタンをタップします。
「メニューアイテムの設定」ウィンドウが表示されます。
 4. 画面の指示に従い、「名前」と「ファイル」を入力して、「OK」をタップします。
 5. 「OK」をタップします。
 6. 「「富士通メニュー」の設定は保存されました。」と表示されたら、「OK」をタップします。
- ・ボタンパネルを無効にしている場合、「Fn」ボタンを2回押しても「富士通メニュー」は表示されません。この場合、通知領域の「富士通メニュー」アイコンをダブルクリックすることで表示させることができます。通知領域に「富士通メニュー」アイコンが表示されない場合は、「C:\Program Files\Fujitsu\Utils\FjMenu.exe」を実行して「富士通メニュー」を表示させてください。

「Fn」ボタンを押した後、他のボタンを押すと、次のような機能で使うことができます。

ボタン	機能
Page Up ボタン	Windows Journal が起動します。
Page Down ボタン	電卓が起動します。

POINT

- ・「Fn」ボタンを押しながら、「Page Down」ボタンまたは「Page Up」ボタンを押したときに割り当てられている機能を変更できます。
- 1. 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にタップします。
「コントロールパネル」ウインドウが表示されます。
- 2. 「プリンタとその他のハードウェア」をタップします。
「プリンタとその他のハードウェア」ウインドウが表示されます。
- 3. 「タブレットとペンの設定」をタップします。
「タブレットとペンの設定」ウインドウが表示されます。
- 4. 「タブレットのボタン」タブをタップします。
「タブレットボタン」の一覧で、変更したいタブレットボタンの名前をタップします。
- 5. 「変更」をタップしてタブレットボタンの設定を変更します。
- ・変更したタブレットボタンの設定が有効になるのは、再起動後です。
- ・すべてのタブレットボタンを変更できるわけではありません。
- ・コントロールパネルの「タブレットとペンの設定」ウインドウは、通知領域にある「タブレットとペンの設定を変更します」をダブルタップしても表示できます。

Memo

2

第2章

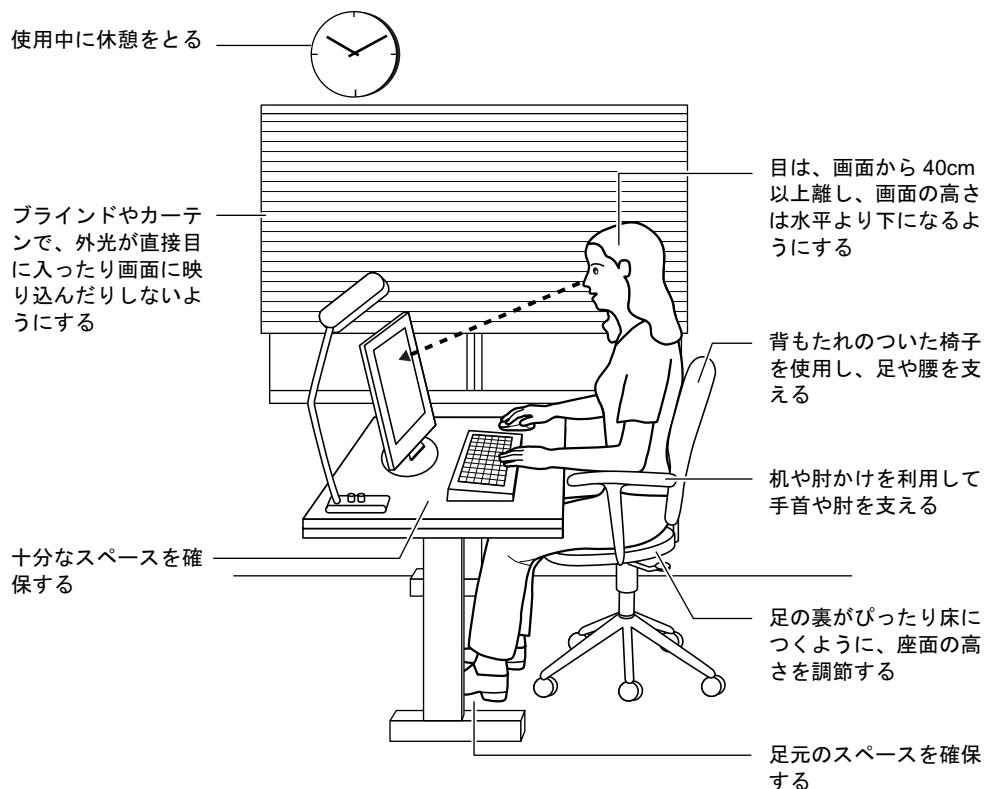
ハードウェア

本パソコンを使用するうえでの基本操作や、本パソコンに取り付けられている（取り付け可能な）周辺機器の基本的な取り扱い方について説明しています。

1	パソコンの疲れにくい使い方	24
2	周辺機器を取り付ける前に	26
3	ポインティングデバイスについて	27
4	キーボードについて	31
5	バッテリについて	34
6	液晶ディスプレイの回転について	42
7	ポータブル CD/DVD ドライブについて	45
8	メモリについて	53
9	SD メモリーカードについて	57
10	コンパクトフラッシュカードについて	61
11	プリンタについて	66
12	外部ディスプレイについて	67
13	ハードウェアのお手入れ	69

1 パソコンの疲れにくい使い方

パソコンを長時間使い続ければ、目が疲れ、首や肩が痛くなり、腰が痛くなることがあります。その主な原因は、長い時間同じ姿勢でいることや、近い距離で画面やキーボードを見続けることです。パソコンをお使いの際は姿勢や環境に注意して、疲れにくい状態で操作しましょう。



POINT

- 富士通では、独立行政法人産業医学総合研究所の研究に協力し、その成果が「パソコン利用のアクションチェックポイント」としてまとめられています。
- 詳しくは、富士通ホームページ (<http://design.fujitsu.com/jp/universal/ergo/vdt/>) の解説をご覧ください。

ディスプレイ

- ・外光が直接目に入ったり画面に映り込んだりしないように、窓にブラインドやカーテンを取り付けたり、画面の向きや角度を調整しましょう。
- ・画面の輝度や文字の大きさなども見やすく調整しましょう。
- ・ディスプレイの上端が目の位置と同じかやや低くなるようにしましょう。
- ・ディスプレイの画面は、顔の正面にくるように角度を調整しましょう。
- ・目と画面の距離は、40cm 以上離すようにしましょう。

使用時間

- ・1 時間以上続けて作業しないようにしましょう。続けて作業をする場合には、1 時間に 10 ~ 15 分程度の休憩時間をとりましょう。また、休憩時間までの間に 1 ~ 2 分程度の小休止を 1 ~ 2 回取り入れましょう。

入力機器

- ・キーボードやマウスは、肘の角度が 90 度以上になるようにして使い、手首や肘は机、椅子の肘かけなどで支えるようにしましょう。

机と椅子

- ・高さが調節できる机や椅子を使いましょう。調節できない場合は、次のように工夫しましょう。
 - 机が高すぎる場合は、椅子を高く調節しましょう。
 - 椅子が高すぎる場合は、足置き台を使用し、低すぎる場合は、座面にクッションを敷きましょう。
- ・椅子は、背もたれ、肘かけ付きを使用しましょう。

作業スペース

- ・机上のパソコンの配置スペースと作業領域は、十分確保しましょう。
スペースが狭く、腕の置き場がない場合は、椅子の肘かけなどを利用して腕を支えましょう。

2 周辺機器を取り付ける前に

取り扱い上の注意

ここでは周辺機器を接続する前に、予備知識として知っておいていただきたいことを説明します。

・周辺機器によっては設定作業が必要です

パソコンの周辺機器の中には、接続するだけでは正しく使えないものがあります。このような機器は、接続した後で設定作業を行う必要があります。たとえば、プリンタや PC カードを使うには、取り付けた後に「ドライバのインストール」という作業が必要です。また、メモリなどのように、設定作業がいらない機器もあります。周辺機器は、本書をよくご覧になり、正しく接続してください。

・マニュアルをご覧ください

ケーブル類の接続は、本書をよく読み、接続時に間違いがないようにしてください。誤った接続状態で使用すると、本パソコンおよび周辺機器が故障する原因となることがあります。

本書で説明している周辺機器の取り付け方法は一例です。本書とあわせて周辺機器のマニュアルも必ずご覧ください。

・純正品をお使いください

弊社純正の周辺機器については、販売店にお問い合わせになるか、富士通ショッピングサイト「WEBMART（ウェブマート）」(<http://www.fujitsu-webmart.com/>) をご覧ください。

他社製品につきましては、本パソコンで正しく動作するかどうか、保証いたしかねます。他社製品をお使いになる場合は、製造元のメーカーにお問い合わせくださいますようお願いいたします。

・ACPI に対応した周辺機器をお使いください

本パソコンは ACPI モードに設定されています。ACPI モードに対応していない周辺機器をお使いの場合、省電力機能などが正しく動作しない場合があります。

また、本パソコンでは、低レベルのスタンバイ (ACPI S1) をサポートしていません。

お使いになる周辺機器が低レベルのスタンバイのみサポートしている場合、本パソコンをスタンバイや休止状態にしないでください。

・周辺機器の電源は、本パソコンの電源を入れる前に入れてください

電源を入れて使う周辺機器を取り付けた場合は、周辺機器の電源を入れてから本パソコンの電源を入れてください。また、周辺機器の電源を切るときは、本パソコンの電源を切ってから周辺機器の電源を切ってください。

重要

- ・コネクタに周辺機器を取り付ける場合は、コネクタの向きを確認し、まっすぐ接続してください。
- ・複数の周辺機器を取り付ける場合は、1つずつ取り付けて設定をしてください。

3 ポインティングデバイスについて

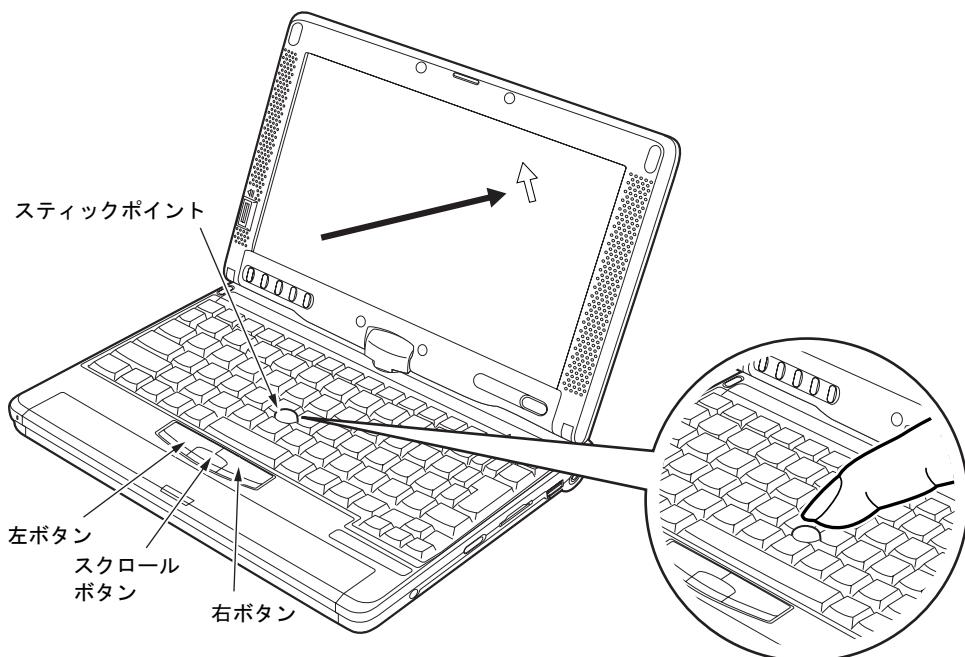
スティックポイントについて

スティックポイントは、指先の操作で画面上の矢印（マウスポインタ）を動かすことのできる便利なポインティングデバイスです。スティックポイントとその手前にある3つのボタンを使って操作します。

スティックポイントは、マウスでいえばボール部分の機能を持ち、スティックポイントを上下左右に指先で押すことにより画面上のマウスポインタを移動させます。

左右のボタンは、それぞれマウスの左右のボタンに相当し、その機能はソフトウェアにより異なります。

中央のスクロールボタンを押しながら、スティックポイントを前後方向に押すことにより、簡単に画面を上下にスクロールできます。

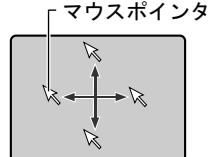
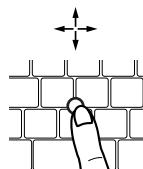


POINT

- ・スティックポイントは、その動作原理上、お使いになる方の指先の乾燥度などにより、ポインティング動作に若干の個人差が発生する場合があります。
- ・スティックポイントのキャップは古くなると、表面がすべりやすくなります。キャップが古くなった場合は、添付のスティックポイント用キャップと交換してください。
- スティックポイント用キャップは、富士通サプライ品です。お問い合わせ先については、『取扱説明書』をご覧ください。
- ・お使いになるソフトウェアによっては、スティックポイントによる画面のスクロールが出来ない場合があります。

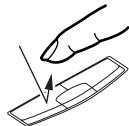
スティックポイントの使い方

・スティックポイントの操作



スティックポイントに指をかけて上下左右に押してください。画面上の矢印（マウスポインタ）は、スティックポイントを押した方向へ動きます。

・クリック



左ボタンをカチッと 1 回押すことです。また、スティックポイントを軽く 1 回たたいても、クリックの動作になります。

右ボタンを 1 回カチッと押すことを「右クリック」といいます。

・ダブルクリック



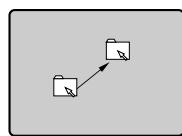
左ボタンをカチカチッと 2 回素早く押すことです。また、スティックポイントを 2 回連続してたたいても、ダブルクリックの動作になります。ダブルクリックの速度は、コントロールパネルの「マウス」で調節できます。

・ポイント



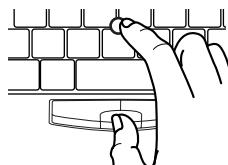
マウスポインタをメニューなどに合わせることです。マウスポインタを合わせたメニューの下に階層がある場合（メニューの右端に▶が表示されています）、そのメニューが表示されます。

・ドラッグ



マウスポインタを任意の位置に移動し、左ボタンを押しながら、希望の位置までスティックポイントを押します。

・スクロール



マウスポインタを任意の位置に移動し、スクロールボタンを押しながらスティックポイントを上下に押すと、画面が上下にスクロールします。

また、スクロールボタンを押しながらスティックポイントを左右に押すと、画面が左右にスクロールします。

POINT

- 上記のボタンの操作は、右利き用に設定した場合の操作です。左右のボタンの役割は、コントロールパネルの「マウス」で変更できます。

USB マウス接続時にスティックポイントを無効にするには

1 Windows 起動時に、【Fn】 + 【F4】キーを押します。

キーを押すたびに、スティックポイントの有効と無効が切り替わります。

有効の場合は「Internal pointing device:Enabled」、無効の場合は「Internal pointing device:Disabled」などと表示されます。

POINT

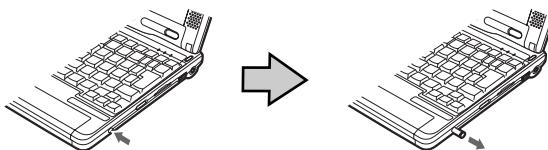
- ・【Fn】 + 【F4】キーを押してスティックポイントを無効にしても、Windows の再起動後およびリジューム後は、スティックポイントが有効になります。スティックポイントを無効にする場合は、もう一度【Fn】 + 【F4】キーを押して切り替えてください。

2

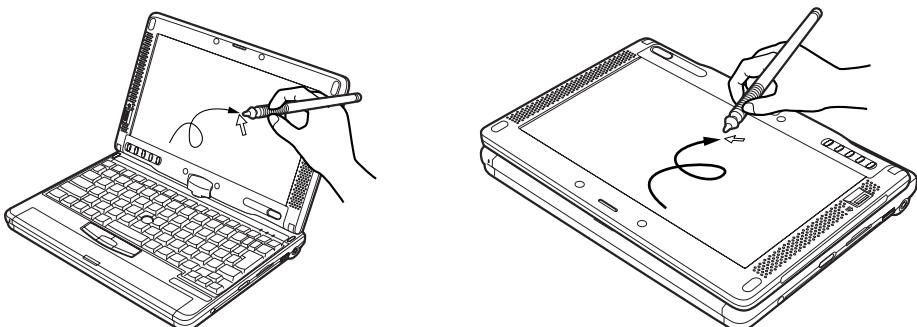
タッチパネルについて

タッチパネルは、画面上で直接マウスポインタを操作できる便利なポインティングデバイスです。本パソコンの液晶ディスプレイに貼り付けられているタッチパネルを、添付のペンで操作します。画面上を直接操作できるので、直感的でスピーディな操作が可能です。

ペンの上部を押すと、ペンが飛び出します。
(ペンを使わないときは、ここに差し込んでおきます)



画面上でペンを移動させると、マウスポインタが移動します。

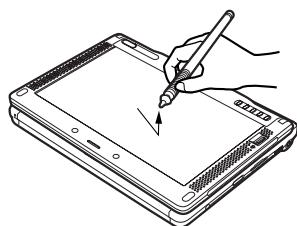


POINT

- ・タッチパネルは、添付のペンで操作してください。指先やボールペンなどで操作すると、パネルが汚れたり、傷がついたりします。
- ・ペン先が引っ込まない程度の力で操作してください。
過度の力を加えると、タッチパネルやディスプレイが破損するおそれがあります。
- ・ペンを使ってタッチ操作をするときは、手が触れないように気をつけてください。手で触ってしまうとマウスポインタが動いてしまいます。
- ・ペンを破損したり紛失したときは予備のペンをご購入ください。富士通サプライ品は、富士通ワーコ株式会社の取り扱い品です。お問い合わせ先については、『取扱説明書』をご覧ください。

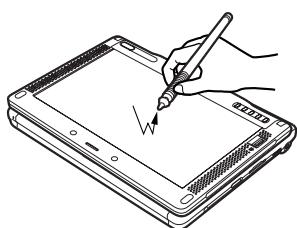
タッチパネルの使い方

- ・タップ



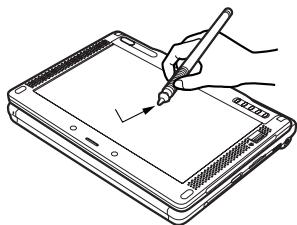
ペンで画面を1回押します。
マウスの左クリックと同様の操作です。

- ・ダブルタップ



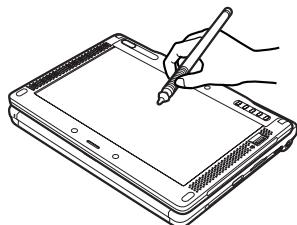
ペンで画面を素早く2回連続して押します。
マウスのダブルクリックと同様の操作です。

- ・ドラッグ



画面に軽く押し付けながらなぞります。

- ・ポイント



ペンで画面に軽く触れます。

4 キーボードについて

OADG キーボード

2

キーボードのキーの役割を説明します。

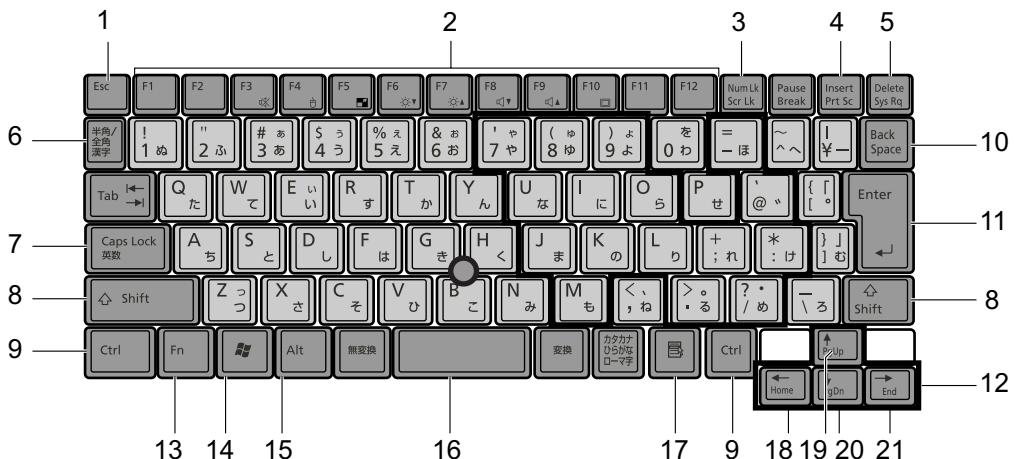
キーは大きく分けると、制御キーと文字キーの2種類に分かれます。

POINT

- ・お使いになるソフトウェアにより、キーの役割が変わることがあります。
ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。
 - ・キーボードに青字で刻印されているキーは、【Fn】キーと一緒に押すとお使いになります。

：制御キー

：文字キー



主なキーの名称と働き

1 [Esc] キー

ソフトウェアの実行中の操作を取り消します。また、【Ctrl】 + 【Shift】キーと一緒に押すと、「Windows タスクマネージャ」が表示され、ソフトウェアを強制終了できます。

2 【F1】～【F12】キー

ソフトウェアごとにいろいろな機能が割り当てられています。

3 【Num Lk】 キー

テンキーモードに切り替えます。再度押すと、解除されます。
「テンキーモードについて」 (→ P.33)

4 【Insert】 キー／【Prt Sc】 キー

【Insert】キー 文字の入力時に、「挿入モード」と「上書きモード」を切り替えます。

【Prt Sc】キー 【Fn】キーと一緒に押すと、画面のコピーをクリップボードに取り込みます。
また、【Alt】キーと一緒に押すと、アクティブになっているウィンドウのコピーをとることができます。

5 【Delete】キー

カーソルの右にある文字や選択した範囲の文字、または選択したアイコンやファイルなどを削除します。
また、【Ctrl】+【Alt】キーと一緒に押すと、「Windows タスクマネージャ」または「Windows のセキュリティ」が表示され、ソフトウェアやシステムを強制終了できます。

6 【半角／全角】キー

文字の入力時に、半角と全角を切り替えます。

7 【Caps Lock】キー

【Shift】キーと一緒に押して、アルファベットの大文字／小文字の入力モードを切り替えます。
Caps Lock を ON にすると大文字、OFF にすると小文字を入力できます。

8 【Shift】キー

他のキーと組み合わせて使います。

9 【Ctrl】キー

他のキーと組み合わせて使います。

10 【Back Space】キー

カーソルの左にある文字や選択した範囲の文字を削除します。

11 【Enter】キー

入力した文字を確定したり、コマンドを実行したりします。
リターンキー、または改行キーとも呼ばれます。

12 【↑】【↓】【←】【→】キー

カーソルを移動するときに使います。

13 【Fn】キー

本パソコン独自のキーです。次のような働きがあります。

【Fn】+【F3】 スピーカーやヘッドホンの ON/OFF を切り替えます。
『ソフトウェアガイド』(PDF) の「機能」－「キーボードで調節する」

【Fn】+【F4】 スティックポイントの有効と無効を切り替えます。

【Fn】+【F5】 全画面表示と通常表示を切り替えます。

『ソフトウェアガイド』(PDF) の「機能」－「全画面表示と通常表示の切り替え」

【Fn】+【F6】 液晶ディスプレイを暗くします。

『ソフトウェアガイド』(PDF) の「機能」－「液晶ディスプレイの明るさ設定」

【Fn】+【F7】 液晶ディスプレイを明るくします。

『ソフトウェアガイド』(PDF) の「機能」－「液晶ディスプレイの明るさ設定」

【Fn】+【F8】 音量を小さくします。

『ソフトウェアガイド』(PDF) の「機能」－「キーボードで調節する」

【Fn】+【F9】 音量を大きくします。

『ソフトウェアガイド』(PDF) の「機能」－「キーボードで調節する」

【Fn】 + 【F10】 外部ディスプレイ接続時に、液晶ディスプレイのみの表示、外部ディスプレイのみの表示、液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示を切り替えます。

『ソフトウェアガイド』(PDF) の「機能」 - 「表示装置の切り替え」

14 【Win】(Windows) キー

「スタート」メニューを表示します。

15 【Alt】キー

他のキーと組み合わせて使います。

16 【Space】キー

空白を入力します(キーボード手前中央にある、何も書かれていない横長のキーです)。

17 【Esc】(ソフトウェア) キー

選択した項目のショートカットメニューを表示します。

ペンの右タップと同じ役割をします。

18 【Home】キー

【Fn】キーと一緒に押すと、カーソルを行の最初に移動します。

また、【Ctrl】キーと一緒に押すと、文章の最初に移動します。

19 【Pg Up】キー

【Fn】キーと一緒に押すと、前の画面に切り替えます。

20 【Pg Dn】キー

【Fn】キーと一緒に押すと、次の画面に切り替えます。

21 【End】キー

【Fn】キーと一緒に押すと、カーソルを最後の行に移動します。

また、【Ctrl】キーと一緒に押すと、文章の最後に移動します。

テンキーモードについて

文字キーの一部を通常の状態と切り替えて、テンキー(数値入力を容易にするキー配列)として使えるようにするモードを「テンキーモード」といいます。テンキーモードの切り替えは、【Num Lk】キーで行い、(状態表示 LED の Num Lock ランプが点灯)、キーボードの図の太線で囲まれたキーがテンキーとなります。これらのキーで入力できる文字は、各キーの前面に刻印されています。

POINT

- 別売のテンキーボードを接続している場合に【Num Lk】キーを押してテンキーモードになると、テンキーボードのテンキーが有効となり、パソコン本体のキーボードのテンキー部は無効となります。
- BIOS セットアップの「キーボード設定」で「起動時の Numlock 設定」を「オン (Fn キー)」に設定すると、パソコン本体のキーボードのテンキー部分が、【Fn】キーと一緒に押した場合のみテンキーモードとして使用できるようになります。

5 バッテリについて

バッテリを充電する

1 AC アダプタを接続します。

AC アダプタを接続すると充電が始まり、状態表示 LED のバッテリ充電ランプ (→ ) が点灯します。

2 バッテリ充電ランプが、緑色点灯に変わったことを確認し、AC アダプタを取り外します。

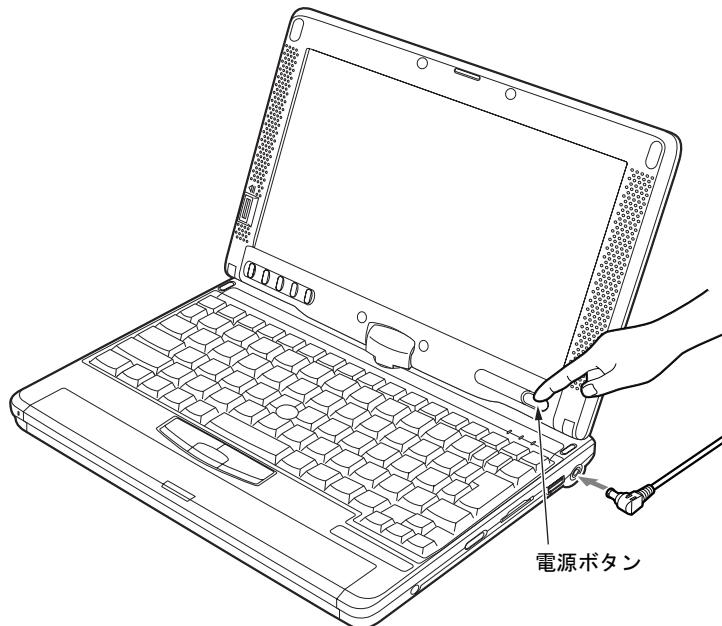
POINT

- 充電時間については、「技術情報」－「仕様一覧」(② P.94) をご覧ください。
- 本パソコンご購入時、または1ヶ月以上充電していない場合は、バッテリを充電してからお使いください。
- バッテリ残量が90%以上残っている場合は、AC アダプタを取り付けても充電されません。89%以下で充電されます。
- 周囲の温度が高すぎたり低すぎたりすると、バッテリの充電能力は低下します。
- バッテリ運用直後の充電などでは、バッテリの温度が上昇しているため、バッテリの保護機能が働いて充電が行われない場合があります（バッテリ充電表示が点滅します）。しばらくして、バッテリの温度が低下すると充電が開始されます。

バッテリで運用する

1 ACアダプタを取り外し、電源ボタンを押します。

電源表示ランプが点灯します。



2

POINT

- ・周囲の温度が低いと、バッテリ稼働時間は短くなります。
- ・バッテリ稼働時間については、「技術情報」—「仕様一覧」(●●▶ P.94)をご覧ください。
- ・バッテリを長期間使用すると充電する能力が低下するため、バッテリ稼働時間が短くなります。稼働時間が極端に短くなってきたら、新しいバッテリに交換してください。
- ・バッテリの温度が上昇すると、パソコンの動作が遅くなる場合があります。その場合は、ACアダプタを接続してください。

バッテリ残量を確認する

バッテリの残量は、電源が入っているときや充電中に、状態表示 LED のバッテリ残量ランプで確認できます。

バッテリの残量表示

LED ランプ	バッテリの状態
緑色点灯	バッテリ残量 100 ~ 51% ^注
オレンジ点灯	バッテリ残量 50 ~ 13% ^注
赤色点灯	バッテリ残量 12%以下 ^注
オレンジ点滅	バッテリ残量計測中（内蔵バッテリパック装着後 4 秒間）
赤色点滅	バッテリ異常時
消灯	バッテリ未接続時またはバッテリ残量 0%

注：動作状態またはバッテリ充電中。

POINT

- ・バッテリ残量表示は、バッテリ（リチウムイオン電池）の特性上、使用環境（温度条件やバッテリの充放電回数など）により、実際のバッテリ残量とは異なる表示をする場合があります。
- ・バッテリ残量が 90%以上残っている場合は、AC アダプタを取り付けても充電されません。89%以下で充電されます。

バッテリの異常表示

バッテリが正しく充電できない場合は、バッテリ残量ランプが赤色に点滅します。

POINT

- ・バッテリ残量ランプが赤色点滅している場合は、パソコン本体の電源を切ってからバッテリの取り付けをやり直してください。それでも点滅している場合はバッテリが異常です。新しいバッテリと交換してください。
- 「ハードウェア」—「バッテリパックを交換する」（ P.39）

LOW バッテリ状態

バッテリが LOW バッテリ状態になると、状態表示 LED のバッテリ残量ランプが赤色点灯します。すみやかに AC アダプタを接続して、バッテリを充電してください。

POINT

- ・Windows の省電力機能で警告音が鳴るように設定できます（→『ソフトウェアガイド』（PDF）の「機能」—「省電力の設定」）。
- ただし、スピーカーを OFF にしていると、警告音が聞こえません。【Fn】+【F3】キーを押して、スピーカーの ON と OFF を切り替えてください（→『ソフトウェアガイド』（PDF）の「機能」—「キーボードで調節する」）。
- ・OS の起動前（BIOS セットアップなど）では、警告音が鳴るように設定できません。
- ・LOW バッテリ状態のまま使用し続けると、作成中または保存中のデータが失われることがあります。すみやかに AC アダプタを接続してください。また、AC アダプタがない場合は、作成中のデータを保存し、動作中のソフトウェアを終了後、本パソコンの電源を

- 切ってください。
- ・ハードディスクへの読み書きは大量の電力を使用します。LOW バッテリ状態で、ハードディスクへデータを保存する場合は、AC アダプタを接続してください。
 - ・LOW バッテリ状態のまま放置すると、自動的にスタンバイします。ただし、ハードディスクなどへデータの読み書きを行っている場合は、その処理が終了するまでスタンバイしません。
 - ・本パソコンではバッテリ残量が約 3% になったら、自動的に休止状態になるように設定されています。設定を変更する場合は、次の項目のチェックを外してください。
 - ・「電源オプションのプロパティ」ウィンドウの「アラーム」タブの「バッテリ切れアラーム」の「電源レベルが次に達したらバッテリ切れアラームで知らせる」
 - ・ただし、これらの設定を変更すると、バッテリが切れた時点で電源が切断されます。
 - ・そのため、保存中や作成中のデータが失われたり、パソコン本体の動作が不安定になることがあります。

取り扱い上の注意

⚠ 警告



- ・バッテリの交換などで、バッテリパックの取り付け／取り外しを行うときは、落としたり、強い衝撃を与えないでください。また、落としたり、強い衝撃を与えたバッテリパックは使用しないでください。
- ・感電や火災、バッテリパックの破裂の原因となります。

・分解しないでください

バッテリを分解して内部に触れると、感電・火災の原因となります。

・放電について

- ・バッテリは、充電後にお使いにならなくても、少しづつ自然放電していくので、使う直前に充電することをお勧めします。
- ・長期間（約 1 ヶ月以上）本パソコンをお使いにならない場合は、バッテリを取り外して涼しい場所に保管してください。パソコン本体に取り付けたまま長期間放置すると過放電となり、バッテリの寿命が短くなります。

・寿命について

- ・パソコン本体を長期間使用しない場合でも、バッテリは消耗し劣化します。月に一度はパソコン本体をバッテリで運用し、バッテリの状態を確認してください。
- ・高温環境に放置した場合、バッテリの消耗、劣化が進みます。
- ・バッテリは消耗品なので、長期間使用すると充電能力が低下します。その場合は新しいバッテリと交換してください。
- ・バッテリの稼働時間が極端に短くなってきたらバッテリの寿命です。
- ・寿命になったバッテリは、パソコン本体から取り外してください。取り付けたまま放置すると、感電や火災の原因となります。

・廃棄・リサイクルについて

バッテリを廃棄する場合は、ショート（短絡）防止のために、バッテリパックのコネクタに絶縁テープを貼るなどの処置を行ってください。なお、取り外した内蔵バッテリパックは乾電池などの電池と混ぜないようにしてください。

また、内蔵バッテリパック（リチウムイオン電池）は、貴重な資源です。廃棄する場合は、リサイクルにご協力をお願いします。

バッテリパックのリサイクルについては、『取扱説明書』をご覧ください。

- ・ **バッテリ稼働時間について**
 - バッテリ稼働時間を長くするには、省電力機能を利用します（→『ソフトウェアガイド』（PDF）の「機能」－「省電力」）。
 - バッテリ稼働時間は環境温度に影響され、低温時はバッテリ稼働時間が短くなる場合があります。
- ・ **次のような場合は AC アダプタを使用してください**
 - ハードディスクや CD などを頻繁に使用するとき
 - LAN やモデムを頻繁に使用するとき
 - 本パソコンをご購入時の状態に戻すとき
 - コンパクトフラッシュカードや USB 機器を 2 つ以上同時に取り付ける場合
- ・ **次のような場合は、バッテリ残量に注意してください**
 - ワイヤレス LAN などのワイヤレス機器を使用するとき
 - BIOS セットアップを操作するとき

バッテリパックを交換する

内蔵バッテリパックの交換は、プログラムやデータをハードディスクなどに保存してから行います。

⚠ 警告



- 内蔵バッテリパックの交換を行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外してください。また、パソコン本体や内蔵バッテリパックのコネクタに触れないでください。感電や故障の原因となります。

POINT

新しい内蔵バッテリパックは、次の製品をお買い求めください。

品名：内蔵バッテリパック

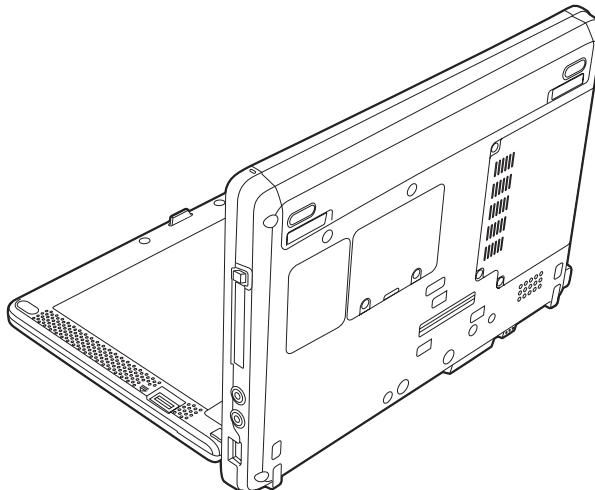
型名：FMVNBP144

品名：内蔵バッテリパック（L）

型名：FMVNBP145

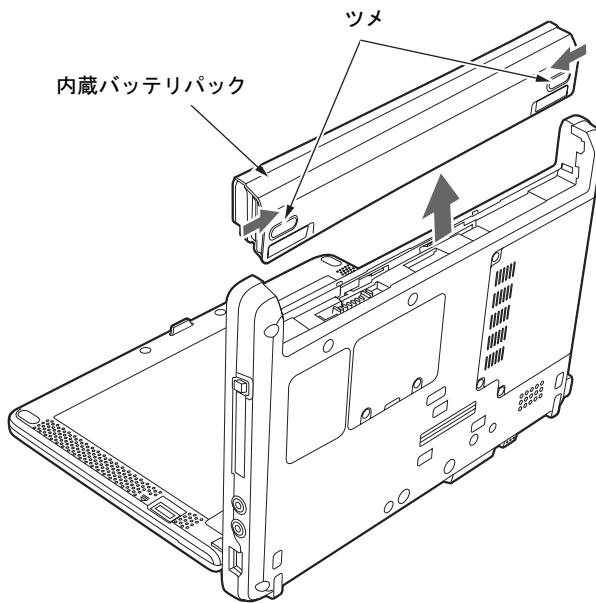
内蔵バッテリパックは、富士通サプライ品です。お問い合わせ先については、『取扱説明書』をご覧ください。

- 1 パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します（→『取扱説明書』）。
- 2 液晶ディスプレイを開いたまま、パソコン本体を裏返します。



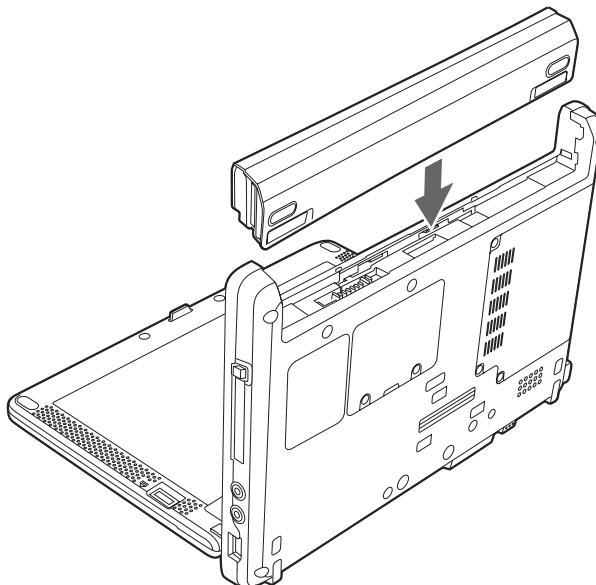
3 内蔵バッテリパックのツメを内側に押しながら内蔵バッテリパックを取り外します。

内蔵バッテリパックロックがコネクタから外れます。



4 新しい内蔵バッテリパックを取り付けます。

新しい内蔵バッテリパックをまっすぐ上から差し込み、パソコン本体の突起と内蔵バッテリパックのスリットをあわせ、カチッと音がするまでしっかりとはめこみます。



重要

- ・取り外したバッテリパックは、ショート（短絡）防止のため、内蔵バッテリパックのコネクタに絶縁テープを貼るなどの処置をしてください。なお、取り外したバッテリパックは乾電池などの電池と混ぜないようにしてください。また、リチウムイオン電池、ニッケル水素電池のバッテリパックは、貴重な資源です。廃棄する場合は、リサイクルにご協力をお願いします。
リサイクルについては、『取扱説明書』をご覧ください。

6 液晶ディスプレイの回転について

ここでは、液晶ディスプレイの回転の仕方について説明します。

本パソコンは、通常の状態、またはタブレットモードの両方の状態でお使いになれます。

次の手順でモードの切り替えが行えます。

重要

- 液晶ディスプレイを回転させるときは、パソコン本体を机などの安定した平らな場所に置いてください。

POINT

- 本パソコンは、通常のノート型パソコンとしてキーボードとスティックポイントで操作するほかに、液晶ディスプレイを180°回転させて外側に折りたたみ、付属のペンで操作することができます。ディスプレイを回転して、たたんだ状態をタブレットモードと呼びます。

1 液晶ディスプレイを開きます。

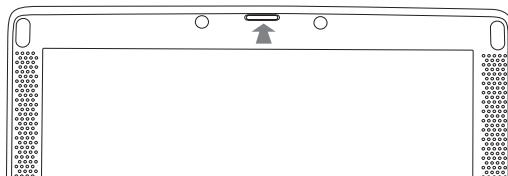
液晶ディスプレイに手を添えて持ち上げます。

POINT

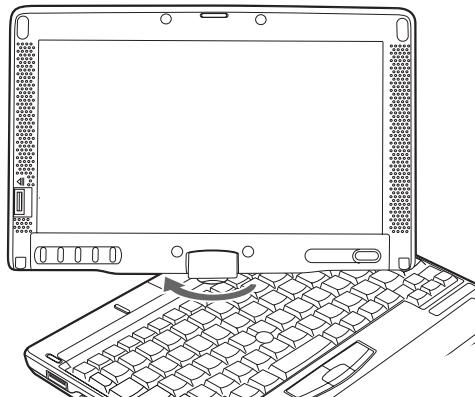
- 液晶ディスプレイは90°の角度に開いてください。それ以外の角度では、パソコン本体を傷つける可能性があります。

2 液晶ディスプレイを手で支えながら、ラッチをパソコン本体の上面側へ押します。

ラッチがパソコン本体上面側へ押し出されます。



3 液晶ディスプレイの両側を持ち、矢印の方向に 180° 回転させます。



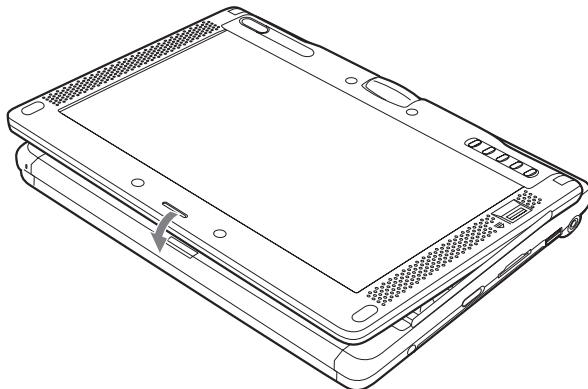
重要

- 液晶ディスプレイを 180° 以上、または逆方向に回転することはできません。180° 以上、または逆方向に回転させようと無理な力を加えないでください。液晶ディスプレイが破損するおそれがあります。

POINT

- 画面を回転させるときは、AC アダプタケーブル、LAN ケーブル、アナログケーブル、モニタケーブルが絡まないようにして回転させてください。
- タブレットモードから通常の状態へ戻すには手順 2、3 で逆方向に回転させてください。

4 液晶ディスプレイを閉じます。



重要

タブレットモードで使用する場合、次の点にご注意ください。

- 手に持つて使用する場合、AC アダプタを取り外してください。
- 手に持つて使用する場合、通風孔や排気孔をふさがないようにしてください。パソコン内部に熱がこもり、故障の原因となります。
- 液晶ディスプレイがしっかりと閉じた状態でお使いください。

POINT

- ・通常の状態からタブレットモードや、タブレットモードから通常の状態にすると画面の表示の向きが自動的に切り替わるように設定されています。詳しくは「富士通タブレットコントロール」のヘルプをご覧ください。

7 ポータブルCD/DVD ドライブについて

本パソコンには、同梱のポータブル CD/DVD ドライブ (USB) を接続できます。

使用できるディスク

- 次のマークのついたディスク

ディスクの種類		読み込み	書き込み	書き換え
CD-ROM		○	×	×
CD-ROM XA		○	×	×
CD-DA (音楽 CD)		○	×	×
Video CD		○	×	×
CD-EXTRA		○	×	×
CD TEXT ^{注1}		○	×	×
Photo CD ^{注2}		○	×	×
CD-R		○	○	×
CD-RW	  	○	○	○
DVD-Video ^{注3}		○	×	×

ディスクの種類		読み込み	書き込み	書き換え
DVD-ROM		○	×	×
DVD-RAM ^{注4}		○	×	×
DVD-R		○	×	×
DVD-RW		○	×	×
DVD+R		○	×	×
DVD+R DL		○	×	×
DVD+RW		○	×	×

注1：付属ソフトウェアを使用することにより、再生が可能です。

注2：使用時には市販の専用ソフトが必要です。

注3：再生可能なDVD-Videoは、リージョンコードが「2」か、「ALL」と書かれているディスクです。リージョンコードが異なる場合は設定の変更が必要です。リージョンコードの変更は4回までで、最後に設定したリージョンコードに固定されます。

注4：DVD-RAMの再生は、カートリッジから取り出し可能なメディア、またはカートリッジがないメディアに限ります。

- 本製品に使用するディスクは、以下のものを推奨します。

ディスク	メーカー
CD-R	太陽誘電(株)、(株)リコー、三菱化学メディア(株)、日立マクセル(株)
CD-RW	三菱化学メディア(株)、富士通サプライ品

富士通サプライ用品については、以下にお問い合わせ下さい。

富士通コワーコ株式会社 お客様総合センター

0120-505-279

9:00～17:30（土曜・日曜・祝日・年末年始除く）

<http://jp.fujitsu.com/coworco/>

DVD-RAMディスクについて

- DVD-RAMディスクは、「記録できるDVD」として、パソコンデータの大容量記録再生を目的に開発されたリムーバブルディスクです。

DVD-RAMディスクには、以下のタイプがあります。

- TYPE1：カートリッジからのディスクの取り出しができません。
- TYPE2：片面のディスクで、カートリッジからディスクの取り出しができます。
- TYPE4：両面のディスクで、カートリッジからディスクの取り出しができます。
- カートリッジなし

- ・本機でご使用いただける DVD-RAM ディスクは、カートリッジなしのタイプです。TYPE2 または TYPE4 の DVD-RAM ディスクは、カートリッジからディスクを取り出してご使用ください。また TYPE1 はご使用できませんのでご注意ください。
本製品では読み込みのみ対応しています。

重要

- ・ディスクをお使いになるときは、次の点に注意してください。
 - ・ケースから取り出すときやパソコンにセットするときなど、ディスクは両面とも触れないようにしてください。
 - ・ディスクは両面とも指紋やほこり、傷などをつけないでください。
 - ・ディスクは両面ともラベルを貼ったり、ボールペンや鉛筆などで字を書いたりしないでください。
 - ・曲げたり、重いものを載せたりしないでください。
 - ・中心の穴を大きくしないでください。
 - ・汚れたり、水滴がついたりしたときは、少し湿らせた布で中央から外側に向かって拭いた後、乾いた布で拭き取ってください。
 - ・シリコンクロスは使用しないでください。
 - ・ヘアードライヤーなどで乾燥させたり自然乾燥させないでください。
 - ・ベンジン、シンナー、レコードスプレー、静電気防止剤などで拭かないでください。
 - ・コーヒーなどの液体がかからないようにしてください。
 - ・高温や低温の場所に保管しないでください。
 - ・湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。
 - ・使わないときは、ケースに入れて保管してください。
- ・円形以外（星型やカード型などの変形）のディスクはお使いにならないでください。正常に読み出しや書き込みが行えなかったり、故障の原因となる場合があります。
- ・傷またはヒビの入ったディスクをお使いになると、ドライブ内部で破損する場合があります。
- ・ゆがんだディスク、割れたディスク、ヒビの入ったディスクはお使いにならないでください。故障の原因となることがあります。これらのディスクをお使いになり故障した場合は、保証の対象外になります。
- ・市販の CD-ROM クリーニングディスクを使ってクリーニングを行うと、レンズにゴミなどが付着することがあります。CD-ROM クリーニングディスクはお使いにならないでください。
- ・規格外の厚さの DVD 媒体はお使いにならないでください。DVD 規格では媒体の厚さを 1.14mm ~ 1.5mm と規定しています。記録面が薄い媒体など、一部でもこの範囲外の厚さになっている媒体をお使いになると故障する場合があります。規格外の DVD 媒体をお使いになり故障した場合は保証の対象外となります。
- ・コピーコントロール CD については、現状の音楽 CD の規格に準拠していない特殊なディスクのため、本パソコンでの再生および動作保証はできません。コピーコントロール CD のご使用中に不具合が生じた場合は、各コピーコントロール CD の発売元にお問い合わせください。なお、正式な音楽 CD 規格に準拠した CD には、次のようなロゴが表示されています。



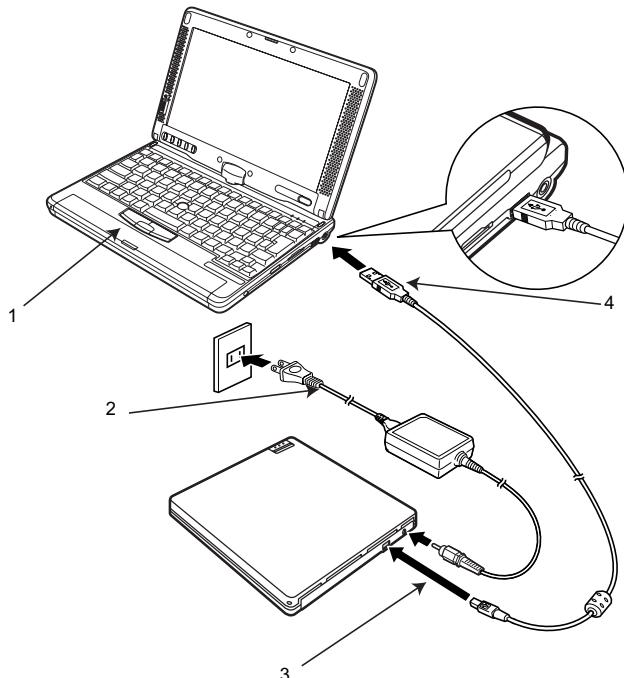
POINT

- ・不正コピー防止の仕様に準拠していない DVD ディスクや Video CD は、正常に再生できない場合があります。
- ・DVD-Audio はお使いになれません。

ポータブル CD/DVD ドライブの取り付け／取り外し

本体と USB ケーブルの接続

接続は確実に行ってください。



- 1 パソコン本体を起動します。
- 2 本製品に AC アダプタを接続します。
- 3 付属の USB ケーブルのコネクタ（小さい方）を、本製品の USB コネクタに差し込みます。
- 4 片方の USB ケーブルのコネクタ（大きい方）をパソコンの USB コネクタに差し込みます。

本製品の電源が自動的に入り、インジケータが緑色に点灯します。

※ 重要

- ・添付の USB ケーブル以外は使用しないでください（本製品やパソコン本体を損傷するおそれがあります）。
- ・長時間使用しないときは、節電のため AC アダプタを電源コンセントから抜いておいてください。AC アダプタを接続した状態でも、約 1 W の電力を消費しています（AC100V 時）。
- ・AC アダプタを電源コンセントに接続する場合は、本製品近くの容易に抜き差しできる電源コンセントをお使いください。
- ・本製品は、パソコン本体の USB コネクタに直接接続してください。USB ハブ経由での接続は動作保証いたしかねます。

POINT

- ・本製品の電源は、パソコンの電源に連動して自動的にオン／オフされます。ただし、パソコン本体によっては、パソコン本体の電源を切っても、本製品の電源が切れない場合があります。
- ・USB ケーブルを抜き差しすることで、本製品の電源は自動的にオン／オフされます。

USB ケーブルの取り外し

2

重要

- ・USB ケーブルを取り外す前に、書き込みソフトでの記録やデータ・音楽の再生などの作業を終了し、あらかじめ本製品からディスクを取り出してください。

- 1 通知領域（タスクトレイ）の「取り外し」アイコンをクリックします。
メッセージが表示されます。
- 2 表示されたメッセージをクリックします（表示されるメッセージは状況により異なります）。
「USB 大容量記憶装置デバイス - ドライブ (E:) を安全に取り外します」
- 3 「'USB 大容量記憶装置デバイス'は安全に取り外すことができます。」と表示されるのを確認して、「閉じる」ボタンまたは「OK」をクリックします。
- 4 USB ケーブルを抜きます。

POINT

- ・インジケーターがオレンジ色に点灯中は、USB ケーブルや AC アダプタを抜かないでください。また、スタンバイ／休止状態に移行させないでください。
データ破壊のおそれやパソコンが正常に操作できなくなることがあります。パソコンの操作が正常にできなくなった場合には、Windows を再起動してください。
- ・本製品にディスクが入っている状態では USB ケーブルを抜かないでください。
- ・「DLA」をご使用の場合には、「マイコンピュータ」のドライブを右クリックし、「取り出し」を選択してから USB ケーブルを抜いてください。

ディスクをセットする／取り出す

本製品は電動オープン機構になっているため、電源が入っていないときはオープンボタンを押してもディスクカバーは開きません。

重要

- ・ディスクはデータの読み出しなどの際、高速で回転するため、使用時に振動や風切音がすることがあります。

POINT

- ・ディスクカバーは、ディスクのセット／取り出しの場合以外は閉めておいてください。ほこりが入り、故障の原因となります。
- ・レンズに手を触れないでください。故障の原因となります。

ディスクのセット

1 本製品をパソコンに接続します。

本製品の電源は、パソコン本体の電源に連動して自動的にオン／オフされます。

POINT

- パソコン本体の電源の入れ方については、パソコン本体に添付のマニュアルをご覧ください。

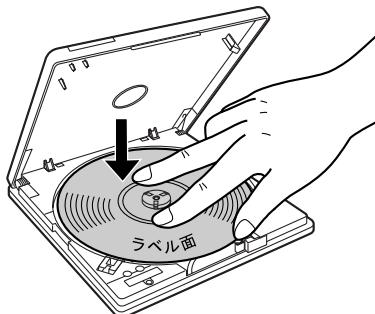
2 オープンボタンを押します。

ディスクカバーが少し開きます。

3 ディスクカバーを持ち上げて開きます。

4 ディスクをセットします。

ディスクの中心付近をディスクが固定されるまで指で押さえてはめ込みます。



※ 重要

- ディスクをきちんとはめ込まないと、ディスクがドライブ内部で外れて、ドライブ内部およびディスクを破損する原因となることがあります。

5 ディスクカバーを閉じます。

POINT

- オープンボタンを押したり、記録が終了した場合などに、ディスクカバーのロックが解除されます。そのまま続けてご使用いただく場合は、ディスクカバーを一度完全に開いてからディスクカバーを閉じてください。
- 本製品で使用できるDVD-RAMディスクは、カートリッジなしのタイプです。TYPE2またはTYPE4のDVD-RAMディスクは、カートリッジからディスクを取り出してご使用ください。

ディスクの取り出し

重要

- ディスクの取り出し操作をする前に、本製品のインジケータがオレンジ色に点灯していないことを確認してください。

POINT

- データ書き込み中（インジケータがオレンジ色に点灯中）は、ディスクカバーがロックされているため、書き込みが終了するまでディスクカバーを開けることはできません。
- 「DLA」をご使用の場合には、次の方法で取り出してください。
 - 「マイコンピュータ」のドライブアイコンを右クリックします。
 - 表示されたメニューから「取り出し」を選択します。

1 本製品をパソコンに接続します。

本製品の電源は、パソコン本体の電源に連動して自動的にオン／オフされます。

2 オープンボタンを押します。

ディスクカバーが少し開きます。

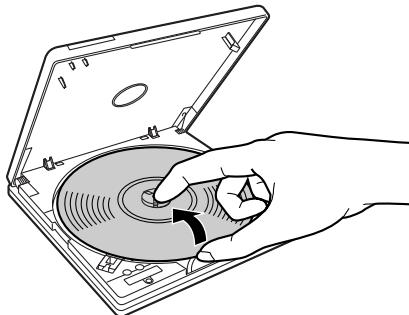
3 ディスクカバーを持ち上げて開きます。

4 ディスクを取り出します。

中央部分を押さえながら、端の方からつまみあげるようにして、取り出します。

POINT

- 本製品にディスクが入っている場合は、使用中のソフトウェアからディスクの「取り出し」を選択してもディスクカバーを開くことができます。



ディスクが取り出せないときは

データ書き込み中の故障や停電などでオープンボタンを押してもディスクカバーが開かない場合は、ディスクカバーロックを強制的に解除し、ディスクカバーを開けることができます。

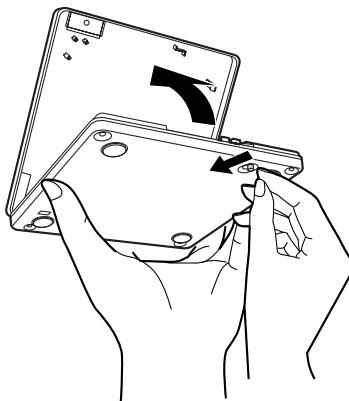
1 本製品裏側の強制オープンレバーをスライドさせます。

ディスクカバーが少し開きます。

2 ディスクカバーを持ち上げて開きます。

※ 重要

- ・ディスクの回転が止まらないときは、ACアダプタをコンセントから抜いて、完全に回転を止めてください。
回転中にディスクカバーを開けるとディスクが外れて飛び出し、ディスクや本製品を破損したり、けがの原因となる可能性があります。



8 メモリについて

メモリを交換する

2

⚠ 警告



- メモリの取り付け／取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、AC アダプタや周辺機器を取り外してください。スタンバイや休止状態では、取り付け／取り外しを行わないでください。
感電の原因となります。また、データが消失したり、パソコン本体やメモリが故障する原因となることがあります。

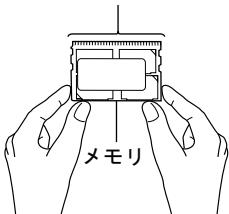


- 取り外したカバー、キャップ、ネジ、電池などの部品は、小さなお子様の手の届かないところに置いてください。
誤って飲み込むと窒息の原因となります。万一、飲み込んだ場合は、すぐに医師に相談してください。

☞ 重要

- 本パソコンのネジを取り外すときは、ネジのサイズに合ったプラスのドライバー1番をお使いください。他のドライバーを使うと、ネジの頭をつぶすおそれがあります。
- 取り付けるメモリは、本パソコンでサポートしているメモリをご使用ください。
FMVNM51HM (512MB)、FMVNM1GHM (1GB) がお使いになります。
- メモリは次図のように両手でふちを持ってください。金色の線が入っている部分（端子）には、絶対に手を触れないでください。指の油分などが付着すると、接触不良の原因となることがあります。

この部分には手を触れないでください



POINT

- 操作に必要な箇所以外には手を触れないでください。故障の原因となることがあります。
- 取り外したネジなどをパソコン本体内部に落とさないでください。故障の原因となることがあります。
- メモリは何度も抜き差ししないでください。故障の原因となることがあります。
- メモリの表面の端子や IC 部分に触れて押さないでください。また、メモリに強い力をかけないようにしてください。
- メモリがうまく取り付けられないときは、無理にメモリを取り付けず、いったんメモリを抜いてから再度メモリを取り付け直してください。
- メモリを取り付け、メモリの容量を確認するには、BIOS セットアップの「情報」メニューの「メモリリスト」の項目を見ます（[P.82](#)）。「512MB DDR2 SDRAM」などと取り付けたメモリの容量が表示されます。取り付けが正しいにもかかわらず本パソコンが起動しない場合は、メモリが故障、または不良です。「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元へご連絡ください。
- パソコン本体の電源を入れる前に必ずメモリを取り付けておいてください。
- メモリを増やすときは、あらかじめ取り付けられているメモリを取り外して交換する必要があります。

メモリを取り付ける

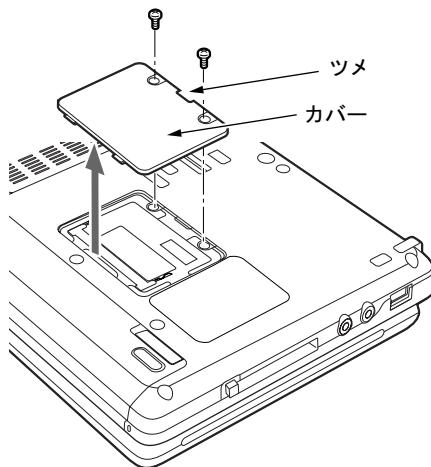
重要

- メモリは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまたま静電気により破壊される場合があります。メモリを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。

1 内蔵バッテリパックを取り外します。

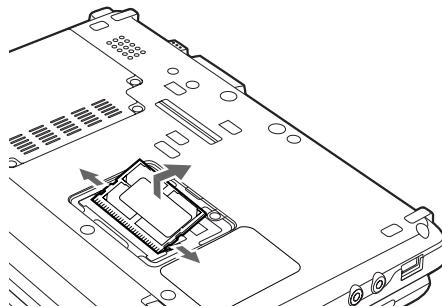
「バッテリパックを交換する」(P.39) の手順 1 ~ 3

2 パソコン本体下面のネジ(2ヶ所)を外し、カバーを矢印の方向にスライドさせて取り外します。



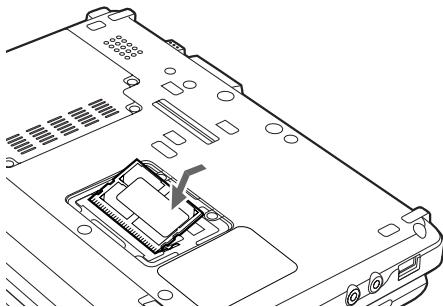
3 メモリを取り外します。

メモリを押さえている両側のツメを左右に開き、スロットから取り外します。



4 新しいメモリを取り付けます。

両手でメモリのふちを持って、斜め上からしっかりと差し込み、パチンと音がするまで下に倒します。

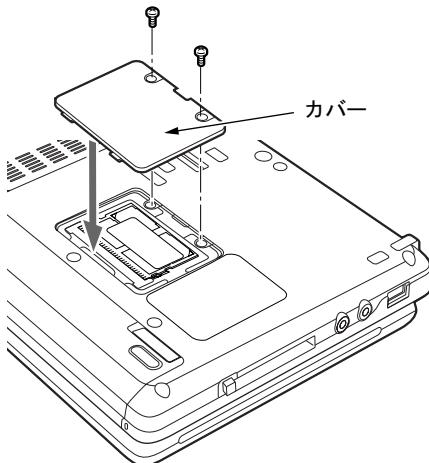


重要

- メモリスロット以外には、手を触れないでください。故障の原因となることがあります。
- メモリの交換を行う場合は、端子やICなどに触れないようメモリのふちを持ってください。
- メモリの表面の端子やIC部分に触れて押さないでください。また、メモリに強い力をかけないようにしてください。
- メモリがうまく取り付けられないときは、無理に取り付けず、いったんメモリを抜いてから再度取り付け直してください。無理に取り付けようすると、メモリやコネクタが破損する原因となります。

5 カバーを取り付け、ネジで固定します。

手順2で外したカバーを取り付けます。カバーのツメをパソコン本体のツメ穴に合わせて、取り付けてください。



6 内蔵バッテリパックを取り付けます。

「バッテリパックを交換する」(▶ P.39) の手順4

※ 重要

- メモリが正しく取り付けられていないと、電源を入れたときに「拡張メモリエラー」というメッセージや英語のメッセージが表示されたり、画面に何も表示されないことがあります。その場合は電源を切り、メモリを取り付け直してください。

9 SD メモリーカードについて

取り扱い上の注意

故障を防ぐため、SD メモリーカードをお使いになるときは、次の点に注意してください。

- ・ 温度の高い場所や直射日光のある場所には置かないでください。
- ・ 強い衝撃を与えないでください。
- ・ 重い物を載せないでください。
- ・ コーヒーなどの液体がかからないように注意してください。
- ・ 保管する場合は、必ずケースに入れてください。

使用できる SD メモリーカード

本パソコンで使用できる SD メモリーカードは次のとおりです。

- ・ SD メモリーカード
- ・ miniSD カード

POINT

- ・ すべての SD メモリーカードの動作を保証するものではありません。
- ・ mini SD カードをお使いの場合は、アダプタが必要になります。必ず mini SD カードアダプタにセットしてからお使いください。そのまま挿入すると、mini SD カードが取り出せなくなることがあります。
- ・ マルチメディアカード (MMC)、およびセキュアマルチメディアカードには対応していません。
- ・ SD IO カードには対応していません。
- ・ パラレルインターフェースを利用した高速データ転送に対応しています。
- ・ SD メモリーカードや、記録されているデータの取り扱いについては、SD メモリーカードや周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- ・ SD メモリーカードをデジタルカメラなどで使っている場合、Windows 上でフォーマットしないでください。フォーマットすると、デジタルカメラなどでメモリーカードが使えなくなります。
- ・ フォーマットしてしまった場合は、デジタルカメラなどで再度フォーマットしてからお使いください。フォーマットの方法については、お使いの機器のマニュアルをご覧ください。

SD メモリーカードをセットする

⚠ 注意



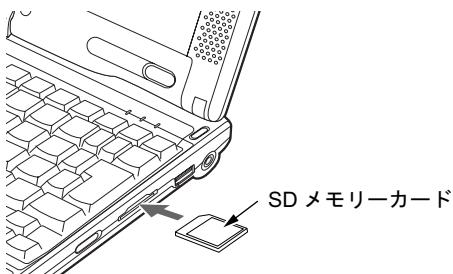
- SD メモリーカードをセットまたは取り出すときは、ダイレクトメモリースロットに指を入れないでください。
けがの原因となることがあります。

☞ 重要

- SD メモリーカードは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体に留まった静電気により破壊される場合があります。SD メモリーカードを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。

1 パソコン本体右側面のダイレクトメモリースロットに、SD メモリーカードをセットします。

SDメモリーカードの製品名を上にしてダイレクトメモリースロットにしっかりと差し込みます。



☞ 重要

- 書き込み禁止の状態の SD メモリーカードにファイルの書き込みや削除を行った場合、書き込みエラーメッセージ、または削除エラーメッセージの表示に時間がかかったり、SD メモリーカードの内容の一部が正しく表示されない場合があります。その場合は、書き込み禁止の状態を解除し、もう一度セットし直してください。

🔍 POINT

- 「Windows が実行する動作を選んでください」と表示されることがあります。「キャンセル」をクリックしてください。

SD メモリーカードを取り出す

⚠ 注意



- SD メモリーカードをセットまたは取り出すときは、ダイレクトメモリースロットに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

2

⚠ 重要

- SD メモリーカードは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体に留まった静電気により破壊される場合があります。SD メモリーカードを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。

1 通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをクリックします。

POINT

- 通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをダブルクリックして表示される「ハードウェアの安全な取り外し」ウィンドウで、「停止」をタップして SD メモリーカードを取り出さないでください。パソコン本体の動作が不安定になる場合があります。
- SD メモリーカードによっては、「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンが表示されないものもあります。アイコンが表示されない場合は、SD メモリーカードのマニュアルをご覧ください。

2 「[SD メモリーカード] を安全に取り外します」をクリックします。

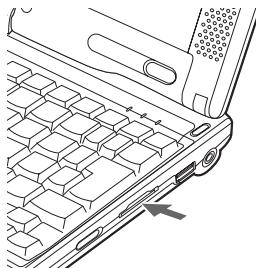
POINT

- 「[SD メモリーカード]」には、お使いの SD メモリーカードの名称が表示されます。
- 「デバイス' 汎用ボリューム' を今停止できません。後でデバイスの停止をもう一度実行してください。」というメッセージが表示された場合は、「OK」をクリックし、メモリーカードにアクセスしていないことを確認した後、もう一度手順 1 からやり直してください。

3 「ハードウェアの取り外し」というメッセージが表示されたことを確認します。

4 SD メモリーカードを一度押します。

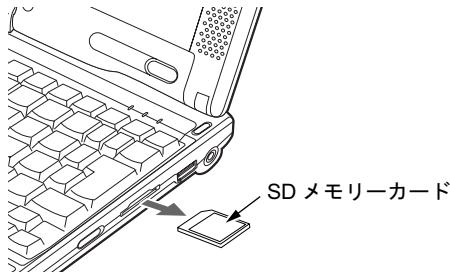
SD メモリーカードが、少し飛び出します。



※ 重要

- ・ダイレクトメモリースロットからSDメモリーカードを取り出す場合は、強く押さないでください。指を離したときに、メモリーカードが飛び出し、紛失したり、衝撃で破損したりする恐れがあります。
- また、SDメモリーカードを引き抜くときは、ひねったり斜めに引いたりして、SDメモリーカードに無理な力がかかるないようにしてください。
- ・SDメモリーカードを取り出す場合は、ダイレクトメモリースロットを人に向けたり、顔を近づけたりしないでください。SDメモリーカードが飛び出すと、けがの原因となることがあります。

5 SDメモリーカードを取り出します。



10 コンパクトフラッシュカードについて

取り扱い上の注意

故障を防ぐため、コンパクトフラッシュカードをお使いになるときは、次の点に注意してください。

- ・ 温度の高い場所や直射日光のあたる場所には置かないでください。
- ・ 強い衝撃を与えないでください。
- ・ 重い物をのせないでください。
- ・ コーヒーなどの液体がかからないように注意してください。
- ・ 保管する場合は、必ずケースに入れてください。

POINT

- ・ SD メモリーカードまたはコンパクトフラッシュカードの種類によっては、同時に使用できないものがあります。お使いになる SD メモリーカードまたはコンパクトフラッシュカードのマニュアルで確認してください。
- ・ 本パソコンでは LAN カードが使えない場合があります。
- ・ 本パソコンでは、3.3V または 5V を使用するコンパクトフラッシュカードのみサポートしています。

コンパクトフラッシュカードをセットする

⚠ 注意



- ・ コンパクトフラッシュカードをセットまたは取り出すときは、コンパクトフラッシュカードスロットに指を入れないでください。けがの原因となることがあります。

☞ 重要

- ・ コンパクトフラッシュカードは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまつた静電気により破壊される場合があります。コンパクトフラッシュカードを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。

POINT

- ・ コンパクトフラッシュカードによっては、セットするときに電源を切る必要のあるものがあります。お使いになるコンパクトフラッシュカードのマニュアルで確認してください。
- ・ コンパクトフラッシュカードによっては、ドライバのインストールが必要なものがあります。お使いになるコンパクトフラッシュカードのマニュアルをご覧になり、必要に応じてドライバをインストールしてください。
- ・ コンパクトフラッシュカードや USB 機器を 2 つ以上同時に取り付ける場合には、AC アダプタでお使いください。バッテリでお使いになると、バッテリが劣化します。

1 コンパクトフラッシュカード取り出しボタンを押します。

コンパクトフラッシュカード取り出しボタンが少し飛び出します。



2 飛び出したコンパクトフラッシュカード取り出しボタンを押し、ダミーカードを取り出します。

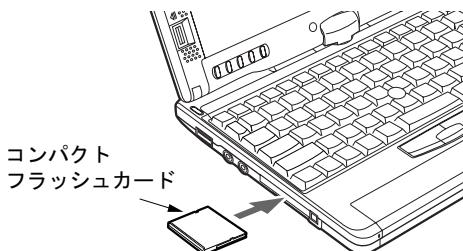


POINT

- ・取り出したダミーカードは、なくさないように保管してください。

3 パソコン本体の右側面のコンパクトフラッシュカードスロットに、コンパクトフラッシュカードをセットします。

コンパクトフラッシュカードの製品名を上にしてコンパクトフラッシュカードスロットにしっかりと差し込みます。



⚠ 重要

- ・コンパクトフラッシュカード取り出しボタンが飛び出している場合は、必ず押し込んでください。
- コンパクトフラッシュカード取り出しボタンが飛び出した状態でコンパクトフラッシュカードをセットすると、ボタンが中に入らなくなります。また、ボタンが破損する原因となります。
- ・うまくセットできない場合には一度、コンパクトフラッシュカードを取り出し、上下が反対になっていないか、差し込む方向が間違っていないかを再度確認してください。
- また、お使いになるコンパクトフラッシュカードのマニュアルもご覧ください。
- ・コードやケーブルを接続して使うコンパクトフラッシュカードをお使いの場合、コンパクトフラッシュカードとコードを接続しているコネクタ部分に物を載せたり、ぶつけたりしないでください。破損の原因となります。
- ・本パソコンにはコンパクトフラッシュカードのロック機構がありません。コード付きのコンパクトフラッシュカードや、ケーブルを接続しているコンパクトフラッシュカードは、コードやケーブルを引っ張らないでください。コンパクトフラッシュカードが抜けるおそれがあります。

POINT

- ・コンパクトフラッシュカードによっては、「ハードウェアの安全な取り外し」が表示されないものもあります。アイコンが表示されない場合には、コンパクトフラッシュカードのマニュアルをご覧になり、確認してください。

コンパクトフラッシュカードを取り出す

⚠ 重要

- ・コンパクトフラッシュカードは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまつた静電気により破壊される場合があります。コンパクトフラッシュカードを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。

POINT

- ・コードやケーブルを接続して使うコンパクトフラッシュカードを取り出す場合、コンパクトフラッシュカードのコードを引っ張らないでください。破損の原因となります。
- ・コンパクトフラッシュカードを取り出す場合は、次の手順で行ってください。手順どおり行わないと、故障の原因となります。
- ・コンパクトフラッシュカードによっては、取り出すときに電源を切る必要のあるものがあります。コンパクトフラッシュカードのマニュアルで確認してください。

⚠ 注意



- ・コンパクトフラッシュカードの使用終了直後は、コンパクトフラッシュカードが高温になっていることがあります。コンパクトフラッシュカードを取り出すときは、手順3の後、しばらく待つてから取り出してください。火傷の原因となることがあります。
- ・コンパクトフラッシュカードをセットまたは取り出すときは、コンパクトフラッシュカードスロットに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。



1 通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをクリックします。

POINT

- コンパクトフラッシュカードによっては、「ハードウェアの安全な取り外し」が表示されないものもあります。アイコンが表示されない場合には、コンパクトフラッシュカードのマニュアルをご覧になり、確認してください。
- 通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをダブルクリックして表示される「ハードウェアの安全な取り外し」ウィンドウで、「停止」をクリックしてコンパクトフラッシュカードを取り出さないでください。パソコン本体の動作が不安定になる場合があります。

2 「[コンパクトフラッシュカード] を安全に取り外します」をクリックします。

POINT

- 「[コンパクトフラッシュカード]」には、お使いのコンパクトフラッシュカードの名称が表示されます。
- 「デバイス' 汎用ボリューム' を今停止できません。後でデバイスの停止をもう一度実行してください。」というメッセージが表示された場合は、「OK」をクリックし、コンパクトフラッシュカードにアクセスしていないことを確認した後、もう 1 度手順 1 からやり直してください。

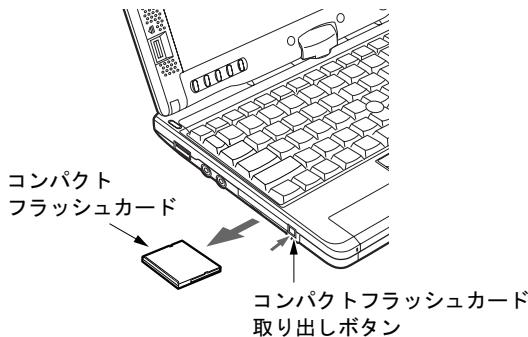
3 「ハードウェアの取り外し」というメッセージが表示されたことを確認します。

4 コンパクトフラッシュカード取り出しボタンを押します。

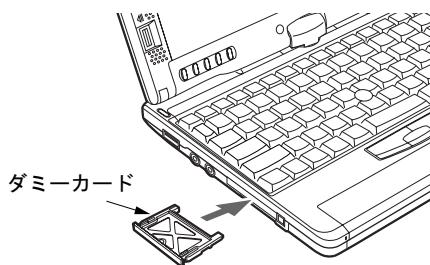
コンパクトフラッシュカード取り出しボタンが少し飛び出ます。



5 飛び出したコンパクトフラッシュカード取り出しボタンを押し、コンパクトフラッシュカードを取り出します。



6 ダミーカードをコンパクトフラッシュカードスロットにしっかりと差し込みます。



 **重要**

- ・コンパクトフラッシュカード取り出しボタンが飛び出している場合は、必ず押し込んでください。
コンパクトフラッシュカード取り出しボタンが飛び出した状態でお使いになると、ボタンが破損する原因となります。

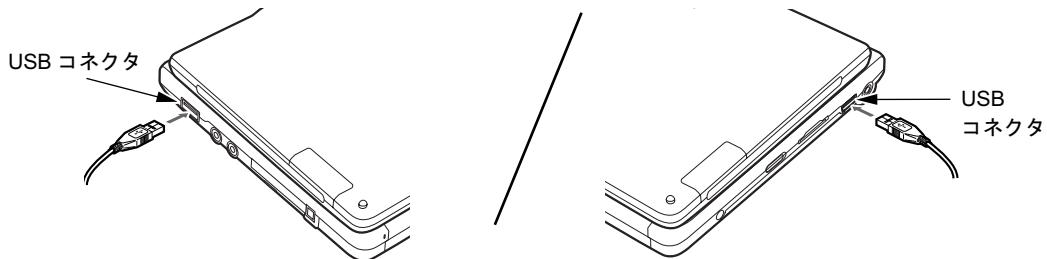
11 プリンタについて

重要

- ・プリンタの接続にはプリンタケーブルが必要です。プリンタケーブルは、プリンタに添付されていないことがあります。
- また、添付されているものも、コネクタの形状により接続できない場合もあります。そのような場合は、接続できるプリンタケーブルを別にお買い求めください。
- ・プリンタの接続方法は、プリンタによって異なります。プリンタのマニュアルをご覧ください。

接続について

USB コネクタの場合



POINT

- ・USB 接続のプリンタは、ポートリブリケータの USB コネクタに接続することもできます。

12 外部ディスプレイについて

接続について

2

本パソコンは、プロジェクタやアナログディスプレイなどの外部ディスプレイを接続することができます。

⚠ 警告



- 外部ディスプレイの接続／取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。
感電の原因となります。

⚠ 注意



- ケーブルは、このマニュアルをよく読み、正しく接続してください。
誤った接続状態でお使いになると、感電・火災の原因となります。また、パソコン本体および外部ディスプレイが故障する原因となります。

アナログディスプレイを接続する場合

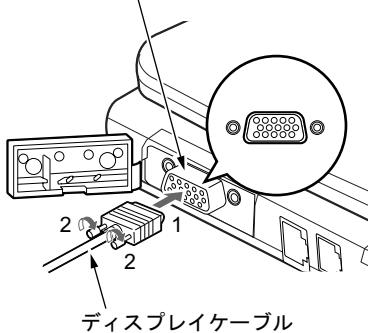
ここでは、パソコン本体背面の外部ディスプレイコネクタに、アナログディスプレイを接続する場合について説明します。

- パソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外します (☞『取扱説明書』)。
- パソコン本体背面の外部ディスプレイコネクタ (アナログ) に、ディスプレイケーブルを接続します。

コネクタは正面から見ると台形になっています。

コネクタの形を互いに合わせてしっかりと差し込み (1) 、ディスプレイケーブルの左右のネジで固定します (2)。

外部ディスプレイコネクタ (アナログ)



POINT

- ・外部ディスプレイは、ポートリプリケータの外部ディスプレイコネクタに接続することもできます。ただし、ポートリプリケータ接続時には、パソコン本体の外部ディスプレイコネクタはお使いになられません。
- ・ポートリプリケータ接続時には、必ずパソコン本体の外部ディスプレイコネクタからディスプレイケーブルを取り外してください。破損の原因となります。

3 アナログディスプレイにディスプレイケーブルを接続します。

接続方法は、アナログディスプレイのマニュアルをご覧ください。

4 アナログディスプレイの電源ケーブルを接続して、電源を入れます。

5 パソコン本体にACアダプタを取り付け、電源を入れます。

POINT

- ・外部ディスプレイを接続後パソコン本体の電源を入れると、次のようになることがあります。
 - ・パソコン本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイで同時に表示される
 - ・「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示される
- この場合は、画面の指示に従って外部ディスプレイのドライバをインストールしてください。

6 画面の表示を切り替えます。

【Fn】+【F10】キーを押すと、液晶ディスプレイ→外部ディスプレイ→同時表示→液晶ディスプレイ…の順で画面表示を切り替えることができます。また、OSの「画面のプロパティ」でも切り替えることができます（『ソフトウェアガイド』（PDF）の「機能」－「表示装置の切り替え」）。

13 ハードウェアのお手入れ

パソコン本体のお手入れ

2

⚠ 警告



- ・感電やけがの原因となるので、お手入れの前に、次の事項を必ず行ってください。
- ・パソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。
- ・プリンタなど、周辺機器の電源を切り、パソコン本体から取り外してください。

パソコン本体の汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。

汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。また、拭き取りの際は、パソコン本体に水が入らないよう十分に注意してください。なお、シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。

液晶ディスプレイのお手入れ

液晶ディスプレイの汚れは、乾いた柔らかい布かメガネ拭きで軽く拭き取ってください。

⚠ 重要

- ・液晶ディスプレイの表面を固いものでこすったり、強く押しつけたりしないでください。
液晶ディスプレイが破損するおそれがあります。
- ・液晶部分を拭くときは、必ずから拭きしてください。水や中性洗剤を使うと、液晶部分を傷めるおそれがあります。
- ・化学ぞうきんや市販のクリーナーを使うと、成分によっては、液晶ディスプレイのコーティングを傷めるおそれがあります。次のものは使わないでください。
 - ・アルカリ性成分を含んだもの
 - ・界面活性剤を含んだもの
 - ・アルコール成分を含んだもの
 - ・シンナーやベンジンなどの揮発性の強いもの
 - ・研磨剤を含むもの

キーボードのお手入れ

キーボードの汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。

汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。また、拭き取りの際は、キーボード内部に水が入らないよう十分に注意してください。なお、シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。

キーボードのキーとキーの間のホコリなどを取る場合は、圧縮空気などを使ってゴミを吹き飛ばしてください。なお、掃除機などを使って、キーを強い力で引っ張らないでください。

3

第3章 **BIOS**

BIOS セットアップというプログラムについて説明しています。
また、本パソコンのデータを守るためにパスワードを設定する
方法についても説明しています。

1 BIOS セットアップとは	72
2 BIOS セットアップの操作のしかた	73
3 メニュー詳細	77
4 BIOS のパスワード機能を使う	83
5 BIOS が表示するメッセージ一覧	88

1 BIOS セットアップとは

BIOS セットアップとは、本パソコンの環境を設定するためのプログラムです。本パソコンご購入時は、すでに最適なハードウェア環境に設定されています。通常の使用状態では、BIOS セットアップで環境を設定（変更）する必要はありません。

BIOS セットアップの設定は、次の場合などに行います。

- ・特定の人だけが本パソコンを使用できるように、パスワード（暗証番号）を設定するとき
- ・起動時の自己診断（POST）で BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示されたとき

重要

- ・BIOS セットアップの設定項目の詳細については、BIOS セットアップ画面（→ P.73）の「項目ヘルプ」をご覧ください。

POINT

- ・BIOS セットアップで設定した内容は、パソコン本体内部の CMOS RAM と呼ばれるメモリに記憶されます。この CMOS RAM は、バックアップ用バッテリによって記憶した内容を保存しています。BIOS セットアップを正しく設定しても、パソコン本体の起動時に「システム CMOS のチェックサムが正しくありません。標準設定値が設定されました。」というメッセージが表示される場合は、バックアップ用バッテリが消耗して、CMOS RAM に設定内容が保存されていないことが考えられますので、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元へご連絡ください。
- ・起動時の自己診断中は不注意に電源を切らないでください。
本パソコンは、自己診断中の異常終了の回数を数えており、3 回続いた場合は 4 回目の起動時に「前回の起動が正常に完了しませんでした。」というメッセージを表示します。
- ・起動時の自己診断（POST）
本パソコンの電源を入れたときや再起動したときに、ハードウェアの動作に異常がないかどうか、どのような周辺機器が接続されているなどを自動的に調べます。これを「起動時の自己診断」（POST: Power On Self Test）といいます。

2 BIOS セットアップの操作のしかた

BIOS セットアップを起動する

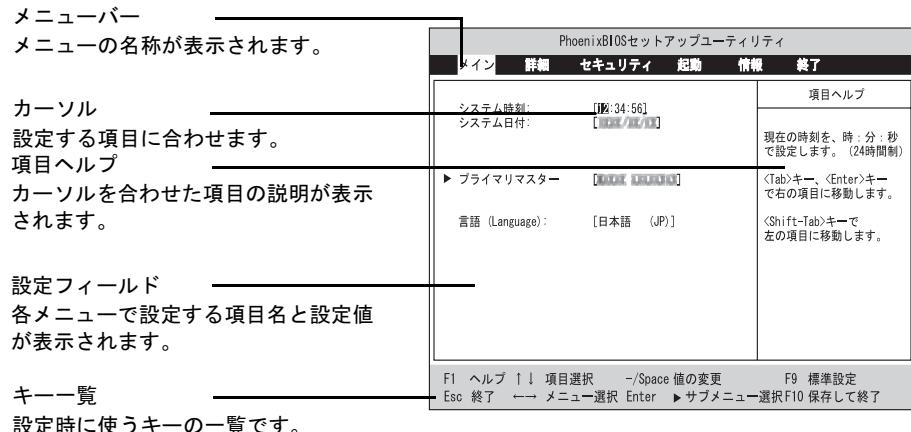
BIOS セットアップでは、すべての操作をキーボードで行います。

- 1 作業を終了してデータを保存します。
- 2 状態表示 LED のハードディスクアクセスランプが点灯していないことを確認し、本パソコンを再起動します。
- 3 「FUJITSU」のロゴマークが表示され、画面の下に「[Esc]Diagnostic Screen, [F2]BIOS Setup, [F12]Boot Menu」と表示されている間に、**【F2】**キーを押してください。

3

BIOS セットアップの操作のしかたが表示されます。

BIOS セットアップ画面の各部の名称と役割は、次のとおりです。



POINT

- ・ BIOS セットアップの画面ではなく OS が起動してしまった場合は、起動が完了するのを待って、もう一度手順 2 からやり直してください。
- ・ 手順 3 で【F12】キーを押すと、「起動メニュー」が表示され、起動するドライブを選択することができます。また、〈BIOS セットアップを起動〉を選択すると、BIOS セットアップの「メイン」メニューが表示されます。



設定を変更する

ここでは一般的な操作方法を説明します。

1 【←】キーまたは【→】キーでカーソルを移動し、設定したいメニューを選びます。

選択したメニュー画面が表示されます。

2 【↓】キーまたは【↑】キーでカーソルを移動し、設定したい項目を選びます。

3 【Space】キーまたは【-】キーを押して、選択している項目の設定値を変更します。

続けて他の設定項目を変更する場合は、手順1～3を繰り返してください。

4 設定を保存して終了します。

「BIOS」－「BIOS セットアップを終了する」(▶ P.76)

※ 重要

- BIOS セットアップは正確に設定してください。
設定を間違えると、本パソコンが起動できなくなったり、正常に動作しなくなることがあります。
このような場合には、変更した設定値を元に戻すか、ご購入時の設定に戻して本パソコンを起動し直してください。

POINT

- 設定内容を変更前の値に戻す方法は、「BIOS」－「終了メニュー」(▶ P.82)をご覧ください。
- 設定内容をご購入時の設定に戻す方法は、「ご購入時の設定に戻す」(→『取扱説明書』)をご覧ください。
- 項目名に「▶」が付いている項目にはサブメニューがあります。
項目名にカーソルを移動して【Enter】キーを押すと、サブメニューが表示されます。元のメニュー画面に戻るときは【Esc】キーを押します。

各キーの役割

設定時に使用するキーの役割は、次のとおりです。

キー	役割
【↑】キー、【↓】キー	設定する項目にカーソルを移動します。
【←】キー、【→】キー	メニューを切り替えます。
【Pg Up】キー、 【Pg Dn】キー	【Fn】キーと一緒に押すことで、メニュー画面が複数ページにわたる場合は、前ページ、または次ページに移動します。
【Home】キー、【End】キー	【Fn】キーと一緒に押すことで、メニュー画面の最初の項目、または最後の項目にカーソルを移動します。
【Enter】キー	▶印が付いた項目のサブメニュー画面を表示します。また、「終了」メニューなどでは、各項目の処理を行います。 設定する項目で押すと、設定値が一覧で表示されます。
【F1】キー	一般ヘルプ画面を表示します。同じキーを再度押すか、【Esc】キーを押せば閉じます。
【Alt】+【H】キー	
【F5】キー	各項目の設定を1つ前の設定値に変更します。
【-】キー	
【F6】キー	各項目の設定を次の設定値に変更します。
【Space】キー	
【F9】キー	標準設定値を読み込みます。
【F10】キー	現在の設定値を保存して、BIOS セットアップを終了します。
【Esc】キー	「終了」メニューを表示します。また、サブメニュー画面でこれらのキーを押すと、1つ上のメニュー画面に戻ります。
【Alt】+【X】キー	

POINT

- ここでいう【-】キーは^{〔二〕}のことです。

BIOS セットアップを終了する

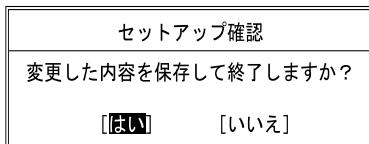
変更した設定を有効にするためには、設定内容を CMOS RAM に保存しておく必要があります。次の操作を行い、設定内容を保存してから BIOS セットアップを終了してください。

1 【Esc】キーを押します。

「終了」メニューが表示されます。

2 【↑】キーまたは【↓】キーを押して「変更を保存して終了する」を選択し、【Enter】キーを押します。

次のメッセージが表示されます。



3 【←】キーまたは【→】キーで「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。

すべての設定値が保存された後、BIOS セットアップが終了し、本パソコンが再起動します。

POINT

- サブメニューを表示している場合は、「終了」メニューが表示されるまで、【Esc】キーを 2 ~ 3 回押してください。
- 設定を変更しないで終了する場合は、「終了」メニューで「変更を保存せずに終了する」を選択して終了してください (●▶ P.82)。
- いったん設定内容を保存したあと、続けて他の項目を設定する場合は、「終了」メニューで「変更を保存する」を選択してください (●▶ P.82)。
 - 「終了」メニューの「変更を保存する」を選択し、【Enter】キーを押します。
「変更した内容を保存しますか?」というメッセージが表示されます。
 - 【←】キーまたは【→】キーで「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。

3 メニュー詳細

重要

- ・ BIOS セットアップの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

メインメニュー

3

「メイン」メニューでは、日時の設定と、ドライブやメモリの機能などの設定を行います。

■システム時刻

■システム日付

■プライマリマスター

POINT

- ・「終了」メニューの「標準設定値を読み込む」(P.82) を実行した直後は、「プライマリマスター」の項目の自動設定が行われていません。BIOS セットアップを再起動すると、各項目が自動設定されます。
- ・タイプ

POINT

- ・通常は「自動」に設定してください。
- LBA フォーマット
- ・合計セクタ
- ・最大容量
- ・マルチセクタ転送
- ・LBA モード制御
- ・転送モード
- ・Ultra DMA モード

POINT

- ・「シリンド数」、「ヘッド数」、「セクタ数」は、「タイプ」が「自動」で、8.4GB 以下のハードディスクと認識されている場合のみ設定できます。
- ・「シリンド数」、「ヘッド数」、「セクタ数」は正しく設定してください。間違って設定すると、正常に動作しなくなります。
- ・「合計セクタ」、「最大容量」は、「タイプ」が「自動」で、ハードディスクと認識されている場合のみ表示されます。
- ・「タイプ」以外の項目は、表示のみで設定できません。

■言語 (Language)

POINT

- ・設定と一緒に画面表示が切り替わり、次に設定を変更するまで同じ言語で表示されます。

詳細メニュー

「詳細」メニューでは、周辺機器の設定などを行います。

■キーボード／マウス設定

- ・起動時の Numlock 設定

■ディスプレイ設定

- ・ディスプレイ

POINT

- ・本パソコンの起動後は、キーボード操作や「画面のプロパティ」で画面表示を切り替えることができます(☞『ソフトウェアガイド』(PDF)の「機能」-「表示装置の切り替え」)。

- ・全体表示

■その他の内蔵デバイス設定

- ・IDE コントローラ
- ・内蔵モデム
- ・内蔵 LAN デバイス
- ・無線 LAN デバイス

■CPU 設定

- ・SpeedStep(R) テクノロジ
 - バッテリ運用時
 - AC 運用時
- ・XD ビット機能

■USB 設定

- ・レガシー USB サポート
 - SCSI サブクラスサポート

POINT

- ・SCSI サブクラスサポートを使用して、パソコンが起動しなくなった場合は、USB デバイスを取り外して再起動してください。

■各種設定

- ・電源ボタン
- ・LAN によるウェイクアップ
- ・自動 Save to Disk
- ・音量設定

- ・ PCI クロックラン
- ・ FAN コントロール

■イベントログ設定

- ・ イベントログ領域の状態
- ・ イベントログ内容の状態
- ・ イベントログの表示

POINT

- ・ イベントログメッセージで、「POST エラー : nnnnnnnnnn nnnnnnnnn」というメッセージが表示された場合は、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元へご連絡ください。それ以外のメッセージは、本パソコンの使用には特に問題のないメッセージです。

- ・ イベントログ
 - システム起動
- ・ イベントログの消去
- ・ イベントログのマーク

セキュリティメニュー

「セキュリティ」メニューでは、本パソコンを特定の人だけが使用できるよう設定を行います。

■管理者用パスワード

■ユーザー用パスワード

■管理者用パスワード設定

POINT

次の項目は、管理者用パスワードが設定されている場合に設定できます。

- ・ ユーザー用パスワード設定
- ・ ユーザー用パスワード文字数
- ・ 起動時のパスワード
 - ・ 自動ウェイクアップ時
 - ・ レジューム時のキーボードロック
 - ・ 取外し可能なディスクからの起動
 - ・ BIOS フラッシュメモリへの書き込み
 - ・ ハードディスクセキュリティ
 - ・ 所有者情報

■ユーザー用パスワード設定

POINT

- ・ 管理者用パスワードとユーザー用パスワードの両方が設定されている状態で、ユーザー用パスワードで BIOS セットアップに入ると、設定値がグレーで表示される項目があります。グレー表示される項目は、ユーザー用パスワードでは変更できません。

■ユーザー用パスワード文字数

POINT

- ・本項目はユーザー用パスワードで BIOS セットアップに入った場合のみ有効です。管理者用のパスワードで BIOS セットアップに入った場合は、最低文字数より少ない文字をユーザー用パスワードとして設定することができます。

■起動時のパスワード

- ・自動ウェイクアップ時

■レジューム時のキーボードロック

■取外し可能なディスクからの起動

■BIOS フラッシュメモリへの書き込み

■ハードディスクセキュリティ

POINT

- ・本パソコンでセキュリティを設定したハードディスクは、他のパソコンに接続しても使用できません。他のパソコンに接続して使用する場合は、本パソコンで設定したハードディスクセキュリティのパスワードの設定が必要になります。

- ・プライマリマスター用パスワード
- ・プライマリマスター用パスワード設定
- ・起動時のパスワード入力

POINT

- ・ハードディスクパスワード設定後、パスワード入力を求めるウィンドウを表示させたくない場合には、「起動時のパスワード入力」を「使用しない」に設定してください。

■所有者情報

POINT

- ・管理者用パスワードが設定されていない場合は、「所有者情報」の各項目は表示されますが、選択できません。

- ・所有者情報
- ・所有者情報設定
- ・文字色
- ・背景色

起動メニュー

「起動」メニューでは、本パソコンの起動時の動作についての設定を行います。

■高速起動

■起動時の自己診断画面

■起動メニュー

POINT

- 管理者用パスワードが設定されている場合に設定できます。

■ネットワークサーバからの起動

■起動デバイスの優先順位

- フロッピーディスクドライブ
- ハードディスクドライブ
- CD-ROM ドライブ
- ネットワーク起動

POINT

- 利用可能な起動デバイスが、起動時の検索順序の高い順に表示されます。ただし、「ネットワーク起動」は、「ネットワークサーバからの起動」が「使用する」に設定されている場合に表示されます。なお、「ネットワークサーバからの起動」を「使用する」に設定した場合、「ネットワーク起動」の優先順位は、再起動後に設定可能となります。
- CD から起動するには起動可能な OS の入った CD が必要となります。再起動前に本パソコンに CD をセットしてください。

情報メニュー

「情報」メニューには、BIOS セットアップやパソコン本体についての情報が表示されます。設定を変更することはできません。

■ BIOS 版数

■ BIOS 日付

■ BIOS 領域

■ CPU タイプ

■ CPU 速度

■ L1 キャッシュ

■ L2 キャッシュ

■ 全メモリ容量

- ・メモリスロット

終了メニュー

「終了」メニューでは、設定値の保存や読み込み、BIOS セットアップの終了などを行います。

■ 変更を保存して終了する

設定した内容を CMOS RAM に保存して BIOS セットアップを終了します。

■ 変更を保存せずに終了する

設定した内容を CMOS RAM に保存しないで BIOS セットアップを終了します。

■ 標準設定値を読み込む

すべての項目を標準設定値にします。

■ 変更前の値を読み込む

すべての項目について、CMOS RAM から変更前の値を読み込み、変更を取り消します。

■ 変更を保存する

変更した内容を CMOS RAM に保存します。

■ 変更を保存して電源を切る

変更した内容を CMOS RAM に保存して、電源を切ります。

4 BIOS のパスワード機能を使う

ここでは、本パソコンのデータを守るためにパスワード機能について説明します。

本パソコンは、他人による不正使用を防止するために、パスワードを設定することができます。パスワードを設定すると、正しいパスワードを知っている人以外は本パソコンを使用できなくなります。

パスワードの種類

3

設定できるパスワードは次のとおりです。

- 管理者用パスワード

本パソコンをご購入になった方などが使用するパスワードです。パスワード機能を使用するときは必ず設定してください。

- ユーザー用パスワード

「管理者」以外で本パソコンをお使いになる方が使用するパスワードです。「管理者用パスワード」を設定した場合のみ設定できます。

- ハードディスク用パスワード

本パソコンのハードディスクを他のユーザーや他のパソコンで使用できないようにするためのパスワードです。「管理者用パスワード」を設定した場合のみ設定できます。

パスワードを設定する

パスワードの設定は、BIOS セットアップで行います。パスワードの設定方法は、次のとおりです。

管理者用パスワード／ユーザー用パスワードを設定する

1 BIOS セットアップを起動します。

「BIOS」 – 「BIOS セットアップを起動する」 (▶ P.73)

2 「セキュリティ」メニューで「管理者用パスワード設定」 (▶ P.79) 、または「ユーザー用パスワード設定」 (▶ P.79) を選択して【Enter】キーを押します。

パスワード入力用のウィンドウが表示されます。

3 8桁までのパスワードを入力します。

入力できる文字種はアルファベットと数字です。

入力した文字は表示されず、代わりに「■」が表示されます。

また、ユーザー用のパスワードの最低文字数は、「ユーザー用パスワード文字数」 (▶ P.80) で設定することができます。

4 パスワードを入力したら【Enter】キーを押します。

「新しいパスワードを確認して下さい。」にカーソルが移り、パスワードの再入力を求められます。

5 手順3で入力したパスワードを再度入力して【Enter】キーを押します。

「セットアップ通知」と書かれたウィンドウが表示されます。

6 【Enter】キーを押して、設定を終了します。

再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」と書かれたウィンドウが表示されます。【Enter】キーを押して、手順3からやり直してください。

パスワードの設定を中止するときは、【Esc】キーを押してください。

ハードディスク用パスワードを設定する

1 BIOS セットアップを起動します。

「BIOS」—「BIOS セットアップを起動する」(▶ P.73)

2 「セキュリティ」メニューで「ハードディスクセキュリティ」(▶ P.80) →「プライマリマスター用パスワード設定」を選択して【Enter】キーを押します。

パスワード入力用のウィンドウが表示されます。

3 8桁までのパスワードを入力します。

入力できる文字種はアルファベットと数字です。

入力した文字は表示されず、代わりに「■」が表示されます。

4 パスワードを入力したら【Enter】キーを押します。

「新しいパスワードを確認して下さい。」にカーソルが移り、パスワードの再入力を求められます。

5 手順3で入力したパスワードを再度入力して【Enter】キーを押します。

「セットアップ通知」と書かれたウィンドウが表示されます。

6 【Enter】キーを押して、設定を終了します。

再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」と書かれたウィンドウが表示されます。【Enter】キーを押して、手順3からやり直してください。

パスワードの設定を中止するときは、【Esc】キーを押してください。

パスワード設定後のパソコンの起動

パスワードを設定すると、設定状態によって次の場合にパスワードの入力が必要になります。

- ・ BIOS セットアップを起動するとき
- ・ パソコンを起動するとき、休止状態から復帰するとき

- ・スタンバイからリジュームするとき

POINT

- ・管理者用パスワードまたはユーザー用パスワードとハードディスク用パスワードが異なる場合は、それぞれのパスワードの入力が必要になります。

■ BIOS セットアップやパソコンの起動時、休止状態からのリジューム時のパスワード入力

パスワードの入力を求めるウィンドウが表示されたら、パスワードを入力し、【Enter】キーを押してください。

POINT

- ・誤ったパスワードを 3 回入力すると、「システムは使用できません」と表示されて、警告音が鳴ります。この場合は、キーボードやマウスが一切反応しなくなるので、本パソコンの電源をいったん切ってから再び電源を入れ、正しいパスワードを入力してください。

■ リジューム時のパスワード入力

パスワードを入力する画面は表示されず、状態表示 LED の Caps Lock ランプと Scroll Lock ランプが交互に点滅します。この状態では、スティックポイント（マウス）とパスワードを入力する以外のキーボード操作ができません。これらを使えるようにするには、本パソコンの起動時に入力したパスワードと同じパスワードを入力してください（【Enter】キーは不要です）。

ただし、USB マウスなどの USB 機器は、セキュリティの対象外になります。

POINT

- ・正しいパスワードを入力しない限り、キーボードやスティックポイント（マウス）は使用できません。
- ・Windows XP の「電源オプションのプロパティ」で、スタンバイや休止状態からの回復時にパスワードを入力するように設定した場合は、スタンバイから回復するときに引き続き Windows のパスワードの入力も必要です。

■ ハードディスク用のパスワード

ハードディスク用のパスワードを設定すると、パソコンを起動するときにパスワードの入力が必要になります。

POINT

- ・ハードディスクパスワード設定後、パスワード入力を求めるウィンドウを表示させたくない場合には、起動時のパスワード入力を「使用しない」に設定してください。
 - ・「ハードディスクセキュリティ」（ P.80）でパスワードを設定したハードディスクは、他のパソコンに接続しても使用できません。他のパソコンに接続して使用する場合は、本パソコンで設定したハードディスクセキュリティのパスワードの設定が必要となります。パスワードを忘れるなどのハードディスクは使用できなくなるので、ご注意ください。
 - ・設定状態によっては、管理者用またはユーザー用パスワードと、ハードディスク用パスワードの入力が必要になります。
- ただし、管理者用またはユーザー用パスワードと、ハードディスク用パスワードが同じ場合は、パスワードの入力は 1 回になります。

パスワードを忘れてしまったら

管理者用、またはハードディスク用パスワードを忘れるときには、パスワード機能を解除できなくなり、修理が必要になります。設定したパスワードを忘れないように何かに書き留め、安全な場所に保管しておくことをお勧めします。なお、管理者用、またはハードディスク用パスワードを忘れてしまった場合は、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元へご連絡ください。保証期間にかかわらず修理は有償となります。

ハードディスク用パスワードは、盗難などによる不正な使用を防止することを目的としています。これは強固なセキュリティであるため、パスワードを忘れてしまうと、修理をしても、パスワードの解除やハードディスク内のプログラムやデータの復元ができず、これらのデータは完全に失われてしまいます。

パスワードの管理には充分注意してください。

POINT

ユーザー用パスワードを忘れた場合

ユーザー用パスワードを忘れた場合は、修理の必要はありません。パソコンの管理者に管理者用パスワードをいったん削除してもらった後、管理者用パスワード、ユーザー用パスワードの順にパスワードを設定し直してください。

パスワードを変更／削除する

パスワードを変更する

設定したパスワードを変更するときは、次の操作を行ってください。

1 BIOS セットアップを起動します。

「BIOS」 – 「BIOS セットアップを起動する」 (▶ P.73)

2 「セキュリティ」メニュー (▶ P.79) で設定したいパスワードを選択して【Enter】キーを押します。

- ・管理者用パスワード設定
- ・ユーザー用パスワード設定
- ・ハードディスクセキュリティ
- ・プライマリマスター用パスワード設定

3 設定してあるパスワードを入力し、【Enter】キーを押します。

「新しいパスワードを入力して下さい。」にカーソルが移ります。

4 8桁までの新しく設定したいパスワードを入力し、【Enter】キーを押します。

「新しいパスワードを確認して下さい。」にカーソルが移り、パスワードの再入力を求められます。

5 手順4で入力したパスワードを再度入力して【Enter】キーを押します。

「変更が保存されました。」というウィンドウが表示されます。

6 【Enter】キーを押して、設定を終了します。

再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」と書かれたウィンドウが表示されます。【Enter】キーを押して、手順4からやり直してください。

パスワードの設定を中止するときは、【Esc】キーを押してください。

POINT

- 誤ったパスワードを3回入力すると、「システムは使用できません」と表示されて、警告音が鳴ります。この場合は、キーボードやマウスが一切反応しなくなるので、本パソコンの電源をいったん切ってから再び電源を入れ、正しいパスワードを入力してください。

3

パスワードを削除する

設定したパスワードを削除するときは、「パスワードを変更する」の手順4～5で何も入力せずに、【Enter】キーを押してください。

POINT

- ユーザーがユーザー用パスワードを削除できるのは、ユーザー用パスワード文字数設定が0のときだけです。0以外のときは、パスワード文字数不足のメッセージが表示されます。

5 BIOS が表示するメッセージ一覧

メッセージが表示されたときは

エラーメッセージが表示された場合は、次の手順に従って処置をしてください。

1 BIOS セットアップを再実行します。

BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示された場合は、BIOS セットアップの、各項目を正しい値に設定してください。

それでもメッセージが表示される場合には、BIOS セットアップの設定値をご購入時の設定に戻して起動し直してください（『取扱説明書』）。

2 周辺機器を取り外します。

周辺機器を取り付けている場合には、すべての周辺機器を取り外し、パソコン本体をご購入時の状態にして動作を確認してください。

それでも同じメッセージが表示される場合には、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元へご連絡ください。

3 取り外した周辺機器を、1つずつ取り付けます。

取り外した周辺機器を1つずつ取り付けて起動し直し、動作を確認してください。

また、割り込み番号（IRQ）を使用する周辺機器を取り付けたときは、割り込み番号が正しく割り当てられるように、設定を確認してください。このとき、各周辺機器のマニュアルや、ユーティリティソフトがある場合にはそれらのマニュアルも、あわせてご覧ください。

上記の処理を実行しても、まだ同じメッセージが表示される場合は、本パソコンが故障している可能性があります。「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元へご連絡ください。

メッセージ一覧

本パソコンは、自動的に故障を検出します。故障の検出は、通常 POST (**••▶ P.72**) 時に行われます。本パソコンが表示するメッセージの一覧は、次のとおりです。

お使いの機種により表示されるメッセージが異なります。機種固有のメッセージについては、メッセージ項目の後に製品名称を表記しています。

POINT

- ・メッセージ中の「n」には数字が表示されます。

正常時のメッセージ

3

- ・ [Esc] Diagnostic Screen, [F2] BIOS Setup, [F12] Boot Menu

起動時の「FUJITSU」のロゴマークが表示されているとき、画面の下に表示されます。このメッセージが表示されている間に【Esc】キーを押すと起動時の自己診断画面が表示され、【F2】キーを押すと BIOS セットアップが起動します。また、【F12】キーを押すと「起動メニュー」画面 (**••▶ P.73**) が表示されます。

- ・ < F12 >キー：起動メニュー / < F2 >キー：BIOS セットアップ

起動時の自己診断画面の下に表示されます。このメッセージが表示されている間に【F12】キーを押すと「起動メニュー」画面 (**••▶ P.73**) が表示され、【F2】キーを押すと BIOS セットアップが起動します。

- ・ Please Wait... お待ちください ...

BIOS セットアップの起動中に表示されます。

- ・ nnnnM システムメモリテスト完了。

システムメモリのテストが、正常に完了したことを表示しています。

- ・ nnnnK メモリキャッシュテスト完了。

キャッシュメモリのテストが、正常に完了したことを示しています。

- ・ マウスが初期化されました。

マウス機能が初期化され、スティックポイントが使えるようになったことを示しています。

POINT

- ・ 正常時のメッセージを表示させる場合は、「FUJITSU」のロゴマークが表示されているときに、【Esc】キーを押します。また、常に表示させる場合は、「起動」メニューの「起動時の自己診断画面」 (**••▶ P.81**) の項目を「使用する」に設定してください。

エラーメッセージ

・拡張メモリエラー。アドレス行: nnnn

拡張メモリのテスト中に、アドレス nnnn でエラーが発見されたことを示しています。

メモリが正しく取り付けられているか、または弊社純正品かを確認してください。

それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元へご連絡ください。

・キーボードエラーです。

キーボードテストで、エラーが発生したことを示しています。

電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

・キーボード接続エラーです。

キーボードテストで、接続エラーが発生したことを示しています。

テンキーボードや外付けキーボードを接続しているときは、正しく接続されているかを確認し、もう一度電源を入れ直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

・ディスクのエラーです。: ハードディスク n

ハードディスクドライブの設定に誤りがあることを示しています。

BIOS セットアップを起動し、「メイン」メニューの「プライマリマスター」の各項目が正しく設定されているか、確認してください。電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元へご連絡ください。

・システムタイマーのエラーです。

システムタイマーのテストで、エラーが発生したことを示しています。

電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元へご連絡ください。

・リアルタイムクロックのエラーです。

リアルタイムクロックのテストで、エラーが発生したことを示しています。

電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元へご連絡ください。

・システム CMOS のチェックサムが正しくありません。- 標準設定値が設定されました。

CMOS RAM のテストでエラーが発見されたため、いったん標準設定値が設定されたことを示しています。

【F2】キーを押して BIOS セットアップを起動し、標準設定値を読み込んだあと、設定を保存して起動し直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元へご連絡ください。

・前回の起動が正常に完了しませんでした。- 標準設定値が設定されました。

前回の起動時に正しく起動されなかったため、一部の設定項目が標準設定値で設定されたことを示しています。

起動途中に電源を切ってしまったり、または BIOS セットアップで誤った値を設定して起動できなかったとき、3回以上同じ操作で起動し直したときに表示されます。そのまま起動する場合は【F1】キーを押してください。BIOS セットアップを起動して設定を確認する場合は【F2】キーを押してください。

・< F1 >キーを押すと継続、< F2 >キーを押すと BIOS セットアップを起動します。

起動時の自己診断 (POST) でエラーが発生したとき、OS を起動する前に本メッセージが表示されます。【F1】キーを押すと発生しているエラーを無視して OS の起動を開始し、【F2】キーを押すと BIOS セットアップを起動して設定を変更することができます。

- ・ **日付と時刻の設定を確認してください。**

日付と時刻の設定値が正しくありません。

設定値を確認し、正しい値を設定し直してください。

- ・ **NVRAM データが正しくありません。**

NVRAM データのテストでエラーが発見されたことを示しています。

「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元へご連絡ください。

- ・ **サーマルセンサエラー。システムの電源が切れます。**

温度制御系の設定が正しく行えなかったことを示しています。

電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

- ・ **ファンエラー。システムの電源が切れます。**

冷却用ファンのテストでエラーが発生したことを示しています。

「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元にご連絡ください。

- ・ **前回の起動中にサーマルセンサエラーが発生しました。**

前回の起動時にサーマルセンサエラーが発生したことを示しています。

「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元にご連絡ください。

- ・ **前回の起動中にファンエラーが発生しました。**

前回の起動時にファンエラーが発生したことを示しています。

「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元にご連絡ください。

- ・ **Invalid system disk**

Replace the disk, and then press any key

フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。

フロッピーディスクを取り出して、【Space】キーなどを押してください。

- ・ **Non-System disk or disk error**

Replace and press any key when ready

フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。

フロッピーディスクを取り出して、【Space】キーなどを押してください。

- ・ **NTLDR is missing**

Press any key to restart

フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。

フロッピーディスクを取り出して、【Space】キーなどを押してください。

- ・ **Remove disks or other media.**

Press any key to restart

フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。

フロッピーディスクを取り出して、【Space】キーなどを押してください。

- ・ **Operating system not found**

OS が見つからなかったことを示しています。

BIOS セットアップの「起動」メニューの設定が正しいか、指定したドライブに OS が正しくインストールされているかを確認してください。

- ・ **PXE-E61:Media test failure, Check cable**

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。LAN ケーブルが正しく接続されていません。

LAN ケーブルを正しく接続してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元へご連絡ください。

- **PXE-E53:No boot filename received**

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーから、起動時に必要な IP アドレスまたは boot filename を取得できませんでした。ブートサーバーを正しく設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元へご連絡ください。

- **PXE-E78:Could not locate boot server**

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーがないか、正しく動作していません。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップで「ネットワークサーバからの起動」を「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元へご連絡ください。

- **PXE-E89:Could not download boot image**

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバー上のブートイメージファイルが取得できませんでした。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップで「ネットワークサーバからの起動」を「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元へご連絡ください。

- **PXE-E32:TFTP open timeout**

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ネットワークブートに失敗しました。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップで「ネットワークサーバからの起動」を「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元へご連絡ください。

POINT

- ・ 本書に記述されていないシステムエラーメッセージが表示された場合は、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元へご連絡ください。

4

第4章

技術情報

本パソコンの仕様などを記載しています。

1 仕様一覧	94
2 コネクタのピン配列と信号名	97

1 仕様一覧

本体仕様

製品名称		FMV-BIBLO LOOX P70R
CPU ^{注1}		インテル® Pentium® M プロセッサ 753
		1.2GHz
キャッシュメモリ		1 次 64KB + 2 次 2MB (CPU 内蔵)
チップセット		インテル® 915GMS チップセット
システムバスロック		400MHz
メインメモリ		標準 512MB (PC2-3200 DDR2 SDRAM DIMM) ECC なし 最大 1GB
拡張メモリスロット		× 1 (空きスロット× 0)
表示機能	グラフィックアクセラレータ	チップセットに内蔵
	ビデオメモリ	最大 128MB (メインメモリと共に用) ^{注2}
	液晶ディスプレイ ^{注3}	8.9 型ワイド TFT カラー 1024 × 600 ドット
	解像度/発色数	液晶ディスプレイ表示 : 1024 × 600 ドット / 1677 万色 ^{注4} 外部ディスプレイ表示 : 最大 1600 × 1200 ドット / 最大 1677 万色
ハードディスクドライブ ^{注5}		30GB (Ultra ATA100)
オーディオ機能	オーディオコントローラ	チップセット内蔵 + AC97 コーデック
	PCM 録音再生機能	サンプリング周波数最大 48kHz、16 ビットステレオ、同時録音再生対応
	MIDI 再生機能	OS 標準機能にてサポート
	スピーカー	モノラルスピーカー内蔵
キーボード		OADG 配列準拠 86 キー (Windows キー、ソフトウェアキー付)
ポインティングデバイス		スティックポイント、スクロールボタン
タブレットボタン		× 5 (プログラマブル × 2)
通信機能	モデム	データ : 最大 56kbps (V.92 標準準拠) ^{注6} / FAX : 最大 14.4kbps
	LAN	100BASE-TX / 10BASE-T 準拠
	ワイヤレス LAN	IEEE 802.11a (J52/W52/W53) 準拠、IEEE 802.11b 準拠、 IEEE 802.11g 準拠 (Wi-Fi® 準拠) ^{注7}
		ダイバーシティ方式
セキュリティ機能	指紋センサー	スライド方式
	セキュリティチップ	なし
	盗難防止用ロック取り付け穴	あり

製品名称		FMV-BIBLO LOOX P70R
インターフェース 本体	コンパクトフラッシュカード	CF+and CompactFlash Specification Revision1.4 準拠 TypeI/II × 1 スロット
	SD メモリーカード ⁸	1 スロット
	外部ディスプレイ	アナログ RGB ミニ D-SUB 15 ピン × 1
	USB ⁹	USB2.0 準拠 × 2 (左側面 × 1、右側面 × 1)
	モデム ¹⁰	RJ-11 × 1 ⁶
	LAN	RJ-45 × 1
	オーディオ	マイク : φ 3.5mm ミニジャック (入力 : 100mV 以下、入力インピーダンス (AC) 10kΩ 以上 (DC) 2kΩ 以上)、ヘッドホン : φ 3.5mm ステレオ・ミニジャック (出力 : 1mW 以上、負荷インピーダンス 32Ω)、内蔵マイク (モノラル) × 1
	状態表示	アイコン表示、LED
電源供給方式	AC アダプタ	入力 AC100V ~ 240V、出力 DC16V (2.5A)
	バッテリ	内蔵バッテリパック : リチウムイオン 10.8V / 2600mAh 内蔵バッテリパック (L) (別売) : リチウムイオン 10.8V / 5200mAh
バッテリ稼働時間 (JEITA 測定法 1.0) ¹¹		約 4 時間 (内蔵バッテリ) 約 8 時間 (内蔵バッテリ (L))
	バッテリ充電時間 ¹²	約 4.0 時間 (内蔵バッテリ) 約 6.5 時間 (内蔵バッテリ (L))
消費電力 ¹³		約 16W / 約 40W
省エネ法に基づく エネルギー消費効率 ¹⁴		S 区分 0.00029
省エネルギー基準達成率 ¹⁵		AAA
外形寸法 (突起部含まず)		W232 × D167 × H34.5mm
質量		約 990g (3 セルバッテリ時)
温湿度条件		温度 5 ~ 35 °C / 湿度 20 ~ 80%RH (動作時)、 温度 -10 ~ 60 °C / 湿度 20 ~ 80%RH (非動作時) (ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと)
プレインストール OS		Windows XP Tablet PC Edition 2005 (DirectX 9.0c 対応)
サポート OS ¹⁶		Windows XP Tablet PC Edition 2005

本パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

注について

注 1 : ソフトウェアによっては CPU 名表記が異なる場合があります。

注 2 : メインメモリ 256MB 以上では最大 64MB。Intel® Dynamic Video Memory Technology (DVMT) により、パソコンの動作状態によって VRAM 容量が変化します。

注 3 : 以下は液晶ディスプレイの特性です。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

- 液晶ディスプレイは非常に精度の高い技術で作られておりますが、画面の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります (有効ドット数の割合は 99.99% 以上です。有効ドット数の割合とは「対応するディスプレイの表示しうる全ドット数のうち、表示可能なドット数の割合」を示しています)。

- 本パソコンで使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。

- 長時間同じ表示を続けると残像となることがあります。残像は、しばらく経つと消えます。この現象を防ぐためには、省電力機能を使用してディスプレイの電源を切るか、スクリーンセーバーの使用をお勧めします。

- 表示する条件によってはムラおよび微少な斑点が目立つことがありますが故障ではありません。

注 4 : 液晶ディスプレイでは、ディザリング機能 (擬似的に色を表示する機能) によって、1677 万色で表示されます。

注 5 : 容量は、1MB=1000²byte、1GB=1000³byte 換算値です。

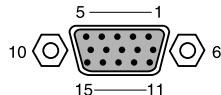
注 6 : 56000bps (は V.92 の理論上の最高速度であり、実際の通信速度は回線の状況により変化します。V.92 の 33600bps を超える通信速度は受信時のみで、送信時は 33600bps が最高速度となります。また、日本国内の一般公衆回線、あるいは構内交換機経由での通信においては同規格での通信が行えない場合があります)。

注 7 : Wi-Fi 準拠とは、ワイヤレス LAN の相互接続性を保証する団体「Wi-Fi Alliance」の相互接続性テストに合格していることを示しています。

- 注 8:・すべての SD メモリーカードの動作を保証するものではありません。
- ・マルチメディアカード (MMC) やセキュアマルチメディアカードには対応していません。
 - ・miniSD カードをお使いの場合は、アダプタが必要になります。必ず miniSD カードを miniSD カードアダプタにセットしてからお使いください。
- 注 9:・すべての USB 規格対応のオプション機器について、動作保証するものではありません。
- ・外部から電源を取らない USB 機器を接続するときの消費電流の最大容量は、1 ポートにつき 500mA です。詳しくは USB 機器のマニュアルをご覧ください。
- 注 10:本パソコンは、電気通信事業法による技術基準適合認定を取得しています。
回線認定番号 : A04-0609001
- 注 11:社団法人 電子情報技術産業協会の「JEITA バッテリ動作時間測定法 (Ver1.0)」(<http://it.jeita.or.jp/mobile/index.html>)。なお、本体のみ、省電力制御あり、満充電の場合。ただし、実際の稼働時間は使用条件により異なります。
- 注 12:電源 OFF またはスタンバイ時。装置の動作状況により、充電時間が長くなることがあります。
- 注 13:・動作時の最小消費電力 (Windows 起動直後の消費電力) / 最大消費電力です。
また、AC アダプタ運用時の消費電力です。
- ・電源 OFF 時の消費電力は、約 1W 以下 (満充電時) です。
なお、電源 OFF 時のエネルギー消費を回避するには、AC ケーブルの電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 注 14:スタンバイ時 (充電なし。AC アダプタを含む)。なお、エネルギー消費効率とは、省エネ法で定める測定方法により測定した消費電力を省エネ法で定める複合理論性能で除したものです。
- 注 15:省エネルギー基準達成率の各製品欄にあるアルファベットは「A は 100% 以上、AA は 200% 以上、AAA は 500% 以上」に達していることを示します。
- 注 16:ブレインストール OS のみサポートします。

2 コネクタのピン配列と信号名

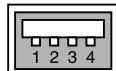
外部ディスプレイコネクタ（アナログ）（ミニ D-SUB15 ピン、メス）



ピン番号	信号名	方向	説明
1	RED	出力	赤出力
2	GREEN	出力	緑出力
3	BLUE	出力	青出力
4	NC	—	未接続
5 ~ 8	GND	—	グランド
9	+5V	—	電源 ^注
10	GND	—	グランド
11	NC	—	未接続
12	SDA	入出力	シリアルデータライン
13	H SYNC	出力	水平同期信号
14	V SYNC	出力	垂直同期信号
15	SCL	入出力	シリアルクロックライン

注：MAX 300mA

USB コネクタ



ピン番号	信号名	方向	説明
1	VCC	—	ケーブル・電源
2	— DATA	入出力	—データ信号
3	+ DATA	入出力	+データ信号
4	GND	—	ケーブル・グランド

Memo

索引

B

BIOS セットアップ	72
各キーの役割	75
起動する	73
終了する	76
設定を変更する	74
BIOS セットアップの操作のしかた	73
BIOS のパスワード機能を使う	83

C

Caps Lock 表示	18
--------------	----

D

DC-IN コネクタ	11
------------	----

F

FDD ユニット (USB)	48
Fn ボタン	20

L

LAN コネクタ	14
----------	----

N

Num Lock 表示	18
-------------	----

P

POST	72
------	----

S

Scroll Lock 表示	19
SD メモリーカード	57

U

USB コネクタ	11, 12, 97
----------	------------

あ行

液晶ディスプレイ	8
お手入れ	69

か行

外部ディスプレイ	67
外部ディスプレイコネクタ	15, 97
拡張 RAM モジュールスロット	16
管理者用パスワード	83
キーボード	9
お手入れ	70
起動時の自己診断	72
起動メニュー	81

吸気孔	16
コネクタのピン配列と信号名	97
コンパクトフラッシュカード	61
コンパクトフラッシュカードスロット	13
コンパクトフラッシュカード取り出し	
ボタン	13

さ行

指紋センサー	9
周辺機器	26
終了メニュー	82
詳細メニュー	78
状態表示 LED	9, 17
情報メニュー	82
スティックポイント	9, 27
スピーカー	16
セキュリティメニュー	79

た行

ダイレクトメモリースロット	11
タッチパネル	29
タブレットボタン	9, 20
テンキーモード	33
電源表示ランプ	18
電源ボタン	9
電源ランプ	9
盗難防止用ロック取り付け穴	14
ドラッグ	28

な行

内蔵バッテリパック	16
内蔵バッテリパックロック	16
内蔵マイク	9
内蔵ワイヤレス LAN アンテナ	10

は行

ハードディスクアクセス表示	18
ハードディスク用パスワード	83
排気孔	14
パスワード (BIOS)	83
削除する	87
設定する	83
変更する	86
パソコン本体のお手入れ	69
バッテリ	34
LOW バッテリ状態	36
異常表示	36
運用する	35
交換する	39
残量表示	36
充電する	34
取り扱い上の注意	37

バッテリ温度アラーム	17
バッテリ残量ランプ	18
バッテリ充電ランプ	17
プリンタ	66
ヘッドホン端子	13
ポインティングデバイス	27
ポイント	28
ポートリプリケータ接続コネクタ	16

ま行

マイク端子	13
メインメニュー	77
メッセージ (BIOS)	88
メモリ	53
モデムコネクタ	14

や行

ユーザー用パスワード	83
------------	----

ら行

ラッチ	8
ローテーションボタン	20, 21

わ行

ワイヤレス LAN アンテナ	10
----------------	----

FMV-BIBLO LOOX P70R

ハードウェアガイド
B6FH-8642-01 Z0-00

発行日 2006年1月
発行責任 富士通株式会社

〒105-7123 東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。